2020年6月9日 速報版 別添資料②

新型コロナウイルス感染長期化に対峙する
札幌の文化芸術関係者の活動再開への道を探る
アンケート調査

第1章　影響と損失

別添資料②

回答者のご意見

1. 個人 336件

2. 団体・事業所 62件

＊回答は受付順に掲載しています
＊求められる対策・支援策についての記述に下線を引いています
＊回答は個人が特定される箇所を除き編集を行わず掲載しています
＊ご自身の書かれた記述で削除したい、公開したくないご意見がありましたら、お手数ですが担当までお申し出ください
＊本資料の無断転載を禁止します

札幌の文化芸術活動のいまとこれからのための調査プロジェクト

個人　Q17. ご意見をぜひお聞かせ下さい。 **（伝えたい現状や、新型コロナウイルス感染拡大に関する支援策に限らず、どのような支援策があれば、団体・事務所の活動を促進するのか、助けになるのか等）**	Q11. 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、現在困っていることは何ですか？（複数回答可）							
	創作発表の機会が失われたこと	創作発表の意欲が湧かないこと	創作発表の準備や稽古ができないこと	札幌市内・近郊外への移動の制限があること	自身の研鑽や後進の指導ができないこと	生計の見通しが立たないこと	補償や給付金などの支援策がわからないこと	活動再開の判断が難しいこと
どのように再開していけばよいか情報公開していってほしい。終息したら練習場所やスタジオなど無料開放、または安くしていただけると意欲が出ます。今は頭も心もフリーズしているので芸術に気持ちが行かなくなりました。皆、同じだと思います。意欲が出たら、違った価値観にさらされた新しい芸術が生まれるのだと信じています。このようなアンケートに答える事が出来て、ありがたく思います。よろしくお願いします。	●		●					●
気兼ねなく相談できる窓口	●	●		●				●
今年83歳になりますが、ダンサー、振付、指導をしています。今年3月、子供舞踏祭の公演で全て終了する予定でしたが打ち切りになり、来年の予定になりました。作品は出来ていますので、出演者の母親達と今後の話し合いになります。納めた参加費は全額戻らない為きびしい状況です。	●		●	●	●			
作品の練習場所、発表場所における、出演者及び観客の安全の確保のための具体策の提示	●		●	●	●			●
活動の場として今年の春に店舗を設けたが、客足が少なくて融資の返済ができるか不安です。	●			●	●		●	
国の説明力が不足。外国の実情の紹介をマスコミが継続的に問いあげること等を希望する	●	●	●		●			●
自分の尊敬しているバンドはSLANG、Hi-STANDARD、Ken Yokoyamaです。　僕のバンドは もんごりいさいけ。です。	●			●				
この状況だと何もできないと思います。							●	
マイナス分の現金支給や　オンラインのスキルを身につける指導など								●
・自分はアマチュアなので金銭的な問題はお門違いだが、プロの人たちが仕事を続けられるように経済的な援助をしてほしい。 ・自分たちのアマチュアの落語団体としてはお年寄りのお客様が多いので、薬の開発が一番。　その後は、寄席を開く時に、衛生面の安全策を知りたい。	●		●		●			●
私は商業デザイナーですのでクライアントありきの創作活動、といった形になります。現時点でクライアントがコロナの打撃を受け、その余波が長く続くと見込んでいます。回答になるかわかりませんが、新しいクライアントに出会うことが必須と考えられる為、現時点でデザインを必要としている方に出会えるような仕組みを模索しています。				●		●		
無し	●			●				
キャンセルになった事業は少ないが、従来、入っていた事業依頼がなくなった。ひとまず、公的給付金などで６～７月を乗り切れば、少し状況がよくなると考えている。	●					●		
公演での収入もなく、アルバイトも飲食店のため、収入がほとんどない状況です。　貯蓄を崩して生活をしています。　独身のため、自身が生活するためだけなので、いますぐに困ることはないですが、不安はあります。	●			●				
今後活動を再開した時に、もしその場所での感染者の発生、またクラスター感染源となってしまった場合の観客や関係者に対する対応のガイドラインや検査費用等の支援は必要になってくるのではと考えます。	●		●		●			
生計は芸術面以外で立てており金銭面においての困難はありませんが、早く人目を気にせず観劇やライブに行ける、出られるようになるといいですね。	●	●	●		●			●
必要な調査活動が図書館や公文書館などの長期休館でできないので、非常に困っています。新聞マイクロフィルムの閲覧などがいつ再開されるのか、「当面の間」ではなく期限を切ってほしい。	●		●	●				●
各種イベントや展示会などの開催を主導して頂きたい。現在の状況では個人でその責任をカバーできないため。	●				●			
例年冬に大型公演を行っていますが、今後の状況が見通せません。どのような状況で、どのような対策を講じれば開催できるのか、今後探っていかなくてはと思います。	●		●					●
どのような対策を講じれば再開（私の場合は寄席を）することが可能なのか、場所や備品・開催の目安などを札幌市として示していただきたい。できれば、より安全な場所の提供まで考えてくださるとありがたい。　今後はあらゆるウイルスが出現することを踏まえて、密になるようなホールではなく、屋外の公園の一隅に屋根付きの舞台とベンチを設けたりして、新しい屋外演芸場（舞台）のようなものをあちこちに作っていただくのはどうでしょうか。	●		●					●
モノヴィレッジなどの販売イベントの再開に期待しています。　再開に当たっての行政の支援が必要との認識　イベント主催側に対してのウイルス対策や衛生用品購入の支援があると再開しやすいのかなと思います	●			●				●
動画収録のためのフレキシブルな撮影場所。現在使用されていないような公共・商用施設があれば活用したい。カフェや飲食店など通常営業出来ないような場所についても活用を検討しても良いのではと思います。				●				
具体的な補助金申請などまでいかなくても、日常の業務で困ったことについての、気軽なレベルでの無料相談があると助かると思いました。		●	●	●				
定期月収相当の収入タイプの方は少ないんじゃないでしょうか。固定給相当がなくても年間でみると明らかにダウンだと思います。まず持続型などの申請期限が数年程度の必要はあるかと。	●				●	●		●
単純に損失した金銭を補填するだけの制度は必要だが、今後もこのような緊急事態が発生した際に、文化芸術、あるいは生産業ではない業種に携わる人々が、何らかのアクションを起こして社会貢献できるプラットフォームを整備する必要を感じる。それによって副次的に収入が生まれる環境が望ましい。				●		●		●
新型コロナウイルスのワクチンができるまで、以前の様な形態での活動は難しいのかと、思案中。　歴史的な初めての経験の中、新しい形の為の知恵を出したいと思う。			●					●
とにかく、活動再開にむけての、多少なりとも経済活動が可能ガイドラインや実践方法を行政主体で民間と協力して行って欲しい。民間が主体ですることは、ある種の風評的なリスクが高い。　Nomapsなどと連携して、社会実装の活動をしていっても良いと思う。								●

個人　Q17. ご意見をぜひお聞かせ下さい。 **（伝えたい現状や、新型コロナウイルス感染拡大に関する支援策に限らず、どのような支援策があれば、団体・事務所の活動を促進するのか、助けになるのか等）**	Q11. 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、現在困っていることは何ですか？（複数回答可）							
	創作発表の機会が失われたこと	創作発表の意欲が湧かないこと	創作発表の準備や稽古ができないこと	札幌市内・近郊外への移動の制限があること	自身の研鑽や後進の指導ができないこと	生計の見通しが立たないこと	補償や給付金などの支援策がわからないこと	活動再開の判断が難しいこと
何か自分から始められることを考えないとなあと思い始めてます。								
文化芸術関係者という中で、文化芸術に触れて楽しんでいた人たちの声をもっと拾うべきと思います。このアンケートでは、表現者からの声しか届かないのではないかと思います。両者がいてこそ成立するのが文化芸術ではないでしょうか。私自身、触れる時間が減って寂しい思いをしています。				●				●
自粛生活に戻らないよう、活動が通常に始まればなんとかなるのではないかと思うが、その期間の間にけいじいが沈んでいけば、金銭的にも長い窮地が続くという予想がある。ので、長い目で見たさまざまな支援策があると良い	●	●		●		●		
副業が認知されてきている中で、副業をどう進めるべきか？あるいは、どうスタートすべきか？などのレクチャーがあると参加したい。	●		●					●
経済性を伴う発表の場の提供	●	●	●					
その場しのぎや行き当たりばったりの支援風な政策ではなく立法化が必要。芸術文化を保護できる法律がなければ先進国とは言えないと思う。	●			●				●
ある劇場において「感染者が出た場合の責任、賠償の問題」ということを言われました。感染などということに責任が問われるべきなのか、イベント主催側に責任があるものなのか、その賠償とは？と考えると前に進めません。創作活動を守る意味でも、イベント再開の指針となるものがエンターテイメント業界から出てくるととても参考になると思います。	●	●	●	●	●			●
今後イベントを行なっていいのか、本当に迷っている。感染予防してもクラスターになることを不安に思う。　観客が入らないと会場費が算出出来ないので、会場費を支援してもらいたいと思う	●							
昨年起業した(収入実績の無い)事業者への支援策	●			●		●		
お金というより専門家の分析。　見通しのための数字、グラフ、　各区ごと、年代、クラスタ分析など、　活動再開へ向けてのリスク回避へ役立てたいから。	●		●	●	●			●
支援のための助成金を出してほしい	●		●	●			●	●
支援のための助成金	●		●					●
何かをはじめようとしても、コロナに対しての考え方が様々なので、風評被害が怖い。個人では少しずつ動いていくしかない。　しかし、その分価値観がより多様化しているような気がするので自由な感じもあるので、少しずつではあるが、前向きに動いていける気がする。　もともと自治体、団体などから支援なんてされたことがないからなにを求めていいかなんてわからない。				●				●
オンラインのみでは仕事が成り立たないので、どうしたものか困惑の日々です。安心して直接人に会うにはどのような方法があるのでしょう。					●	●		●
色んな支援が増えてきているので、取り急ぎ困ってる事もそんなに無いのですが、　人との交流が元々少ない働き方をしていて、更にこの状況だったので、精神面のケアが必要になってきている気がします。　リモート飲み会等ありますが、した事がなく、誘われないとなかなか勇気も出ず、自分から参加しづらい人もいます。　今の状態を誰かに話せたら少しでも気持ちが軽くなる気がしていて、こんなリモート会に参加しませんか？と色々声をかけてくれたら助かると思います。			●	●				●
学費半額	●			●		●		
コロナウィルス感染拡大以前のような活動の機会があることを望んでおりますが、先の見通しが立たっていないというのが現状です。					●		●	●
どの時点で収束と呼ぶのかがわからないので、巨大イベントはやりにくい心理状況になるのではないかと不安だ。もう大丈夫なのに世論が許さない状態がなければいいなと思います。	●							●
今回のコロナ禍の中で、自身の制作と指導者と二本立ての暮らし見つめ直すことが出来ました。心を込めてこの暮らしを過ごしたいと思っています。								●
わたしは学校の教員で、プロではないので経済的には助かっています。しかし、指導する生徒の制作の機会が失われ、発表の場もなくなりそうです。生徒の場合、発表の場を失うと、制作のモチベーションが下がります。　中には、芸術の進学を目指す生徒もおり、進学のポイントとなる評価を得られないのはかわいそうです。　その一方で、わたしは命が1番大切と思っているので、無理に生徒の作品展を開くことには反対です。命がけでやるべきではないとおもっています。しかし、何がなんでも作品展を開催して代表を選びたい人たちもいるようで困っています。（代表を選ぶこと、選ばれることが目的になっている）　生徒には、評価や順位だけでなく、交流がたいせつだとおもっていますが、今年は交流させてはいけないのが残念です。　オンラインが盛んですが、それは、そうでもして実施しないと食べていけない人たちの苦肉の策でもあると思うので、映像を見ることよりも実物、実体験の大切さを訴え続けたいです。		●	●	●	●			●
感染予防を万全にして、公共スペースを閉鎖すべきでなかった。	●			●	●			
道外からのお客様を失ったのが痛い。　明らかにコロナを理由にされて、大きな損失。						●	●	
演奏の場としている場所やお店が、ライブハウス、という一括りで判断されることに疑問を感じています。もっと細やかに、現実と照らし合わせた判断の基準を持ってほしいです。	●	●	●	●	●			●
このような状況下でも発表出来る場所の運営。	●							
5月の収入はゼロだが、早々にZOOMへシフト。仕事は全てオンラインにすることで、6月からはコロナ前と同じペースで仕事が出来るようになりました。								
イベントなどを再開したいです。	●	●	●		●			●

個人　Q17. ご意見をぜひお聞かせ下さい。 **（伝えたい現状や、新型コロナウイルス感染拡大に関する支援策に限らず、どのような支援策があれば、団体・事務所の活動を促進するのか、助けになるのか等）**	Q11. 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、現在困っていることは何ですか？（複数回答可）							
	創作発表の機会が失われたこと	創作発表の意欲が湧かないこと	創作発表の準備や稽古ができないこと	札幌市内・近郊外への移動の制限があること	自身の研鑽や後進の指導ができないこと	生計の見通しが立たないこと	補償や給付金などの支援策がわからないこと	活動再開の判断が難しいこと
劇場での公演が再開できるのか、再開できたとしてもこれまで通りの予算、取り組みでは難しく、特に金銭面での不安が尽きない。また、公演実現のための稽古場の確保、当日までの予防対策など、新型コロナウイルスを境に取り組み方を考えなければいけないことが積み重なっている。何かしらガイドラインや指針をいただきたいと考えている。	●			●				
建築の分野、特に社員としての雇用形態においては、経済的な影響が直接的に自分へ届くことは少ないように感じます。				●				
とにかく大げさすぎる報道で、コロナに対する印象操作がされている気がします。薬がないというだけで、見えない人質を取られている状態ですが、経済活動を止めるほどの恐ろしいものでしょうか。コロナで亡くなった方には大変お気の毒ですが、全世界の死亡者数は、例年に比べ、そんなに変わっていないのでは。インフルエンザの罹患数や死亡者数も減っている、在宅のおかげで自殺者数も減っています。　コロナの輪郭を、もっと冷静に見つめるべきかなと思います。			●	●	●	●		
織物の教室、指導をしておりますが、人との接触が避けられない実技指導、安全な教室の再開方法について現在検討しています。				●				●
SNSによる情報ポータルサイトがあればよいと思う				●				
文化芸術部門の相談出来る札幌市の対応先が有れば心強いです。							●	●
現在は動画や中止延期になった公演に関わる支援が主なので、この先無観客や観客動員関わらず新たな公演企画に対する支援が出てくる事を願います。会場費全額負担だけでも大いに助かります。	●		●	●		●		●
舞台公演を行うにあたっての感染防止策のガイドラインやそれにより負担が増える分の支援があると活動再開しやすい								●
作品のPRの場所提供	●							●
wakaranai		●						
安全に活動するための理解と協力	●							●
ギャラリーなどが継続して開館していってほしい。今年、来年と決まっている展示会が出来るように！								
世の中の人々に金銭的に余裕ができないと、手に入れたいという欲求は後回しにされる部類に関わっている仕事です。作る側・受ける側のバランスを取れるような仕組みを構築していただきたいと思います。	●	●	●		●			●
お土産品としての需要と、ハンドメイドイベント、学生さんへのワークショップなどを主に行っていましたが、今は札幌軟石の本来の用途である建築との組み合わせをもっと気楽に手軽にできる道を模索しています。個人のお宅に家人が軟石の端材を貼るとか、そういったものの材料としての販売、庭に石窯を作るなど、小さい規模の楽しみをサポートできる軟石のスタイルを考えています。新しい方向へ。	●					●		●
とにかく早くお芝居が出来る状態になるのを待つだけ。	●	●	●					●
フリーのインストラクターは1クラスにどれだけたくさんの人を入れるか？で収入が決まります。3密を避けてスカスカの状態でレッスンしても赤字なんです。　その辺の収入減に対する補填をしてもらえると助かります。	●		●		●	●		
自分は罹患したが、そのための差別があった。怖いのはウィルスではなくて人間。	●			●	●			●
子ども達が沢山集まって密になり、お喋りしながら楽しむ工作WSがメインの活動なので、今後はこの様な活動が出来るのであろうかという心配しかないです。　対子どもに対する安全対策等の指導があれば、助かります。								●
公益財団法人が経営再建基金（仮称）を２、３億円を積み立てることが制度改正								
私自身はほかに仕事があり今すぐどうこうというわけではないが、今後のワークショップや公演などは直前になってキャンセルは大きな損害が出るし、逆に制限解除になったからといって明日から本番は出来ない。そういった時の助けになる事があると良いと思っている。	●		●					
私は芸術関係とイベント司会やテレビレポーターで生計を立ててきました。　主な稼ぎは大きなイベントの司会とレポーターだったため収入がほぼありません。　テレビと聞くと疑問かも知れませんが、スポンサーがお金を出さないのでテレビ局も局アナ以外の外注を使わない状態です。　おそらく最終段階と思われるレベルまで落ち着かないと大きなイベントも開かれることはないでしょう。　支援策、、、とにかく生きる為の現金が必要です。　個人でやっている歌や芝居は残念ながら稼ぎの足しにはほぼなりません。　どうか、今だけではなく長い期間の金銭的サポートをお願いしたい。　貸し付けでは返す当てがないので使えません。	●	●	●	●	●	●		●
会社が倒産の危機にあり、業界に対する支援策を出してほしい						●		
積極的なアンケート実施をしていただきありがとうございます。　私の現状としては、私立のホールが中止や延期に関わるフォローも難しい状況なので、延期対策を取って来年に公演が移っています。公立のホールは返金等ありますので、建て直しをしている状況です。今後の後半の年内公演(オペラ)はかなり厳しい状況となっており、私の企画は来月実施判断をします。まずは予算が崩壊していますので立て直しをしなくてはいけません。 もっとも危惧していることは、学生、新人、音楽関係者の活動意欲低下と、今後彼ら(地域に根付いた個人、団体)の文化活動を再開するために行政がどの程度文化活動を地域住民(お客様)に見える形で支援できるかどうかです。(行政が先導をきって地域に文化活動の意義を訴えていけるかかと思います)　教育機関も前期はすっかり方針が変わり、音楽につきましてもかなり難しい局面となっております。　皆さまも大変お忙しい中動いていただき、感謝しかありません。どうかこのアンケートが広く届きますよう願っております。		●	●		●			●

個人　Q17. ご意見をぜひお聞かせ下さい。 **（伝えたい現状や、新型コロナウイルス感染拡大に関する支援策に限らず、どのような支援策があれば、団体・事務所の活動を促進するのか、助けになるのか等）**	Q11. 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、現在困っていることは何ですか？（複数回答可）							
	創作発表の機会が失われたこと	創作発表の意欲が湧かないこと	創作発表の準備や稽古ができないこと	札幌市内・近郊外への移動の制限があること	自身の研鑽や後進の指導ができないこと	生計の見通しが立たないこと	補償や給付金などの支援策がわからないこと	活動再開の判断が難しいこと
色々な支援金や給付金の申請をしてますが、どれも支払われず、家賃はじめ、色々な支払いができない、申請が受理されてるのかどうかも分からないので、次の手立てができない、もちろん支払われないと大変困りますが、どうなのかの返答がまずほしい。ダメなら次考えなければならないし、OKなら速やかに支払われないと、各方面への支払いが滞る	●		●	●	●	●		
いつか発表できる日が来るまで、お稽古は日々継続していく必要がある。　遠方の方や高齢の方とでもお稽古を継続していくため、リモートのお稽古を検討しているが、高齢の方でも簡単に行える方法を現在模索中。　スマホやパソコンを持たない世代と、どの様な方法で繋がる事が一番分かりやすく簡単なのか検討している。	●		●		●			●
今のままでは、役者も踊り手も歌い手も誰も活動できなくなってしまい世界からアートがなくなります！そして、音楽は心の健康のために1番必要なものとされています。また、舞台などでの表現を楽しみにしてくださっている声も多々聞いていたのにも関わらず3月の公演を中止せざるを得なくなったのもあり正直、結構滅入っています。だからこそコロナに勝った時のために芸術を残したいです。助けてください。	●			●				●
団体に対してではなく、個人事業主として、個人に対する資金援助。10万の給付では生活すら困難。			●	●		●		
材料費・生活費の支援金		●				●		
特にない			●					
札幌で11月にオペラに出演させていただく予定でしたが、公演を延期するか行うか、出演者・スタッフ一同で悩んでいます。11月という時期、既に予約済みのホールの使用料はどうなるのか、今年度分で申請していた助成金の扱いはどうなるのか、また、公演を行ったところで席数を減らして公演を行えば赤字となるため、その資金繰りをどうするのかが悩みの種です。また延期をしたところで、今回の企画は道内外の多くの人が関わるので、スケジュールの見通しが立たないようです。中止をすれば簡単なのかもしれませんが、それはとても残念に思います。　ライブ配信の技術や資金の援助は、今、非常に有り難いと思います。			●	●	●			●
支援策については、運営団体の規模や運営組織(有志や有限会社、個人事業主など)にかかわらず、平等に行っていただきたいです。　　また、アフターコロナでは、公演活動などの舞台表現を行う費用的な体力が残っていない団体が多くなると思われます。活動を後押しするためにも、公共のホールなど、使用料金の軽減措置などがあれば、支えになると思います。	●		●		●			●
どんな支援があるのか、どこを見たらわかるのか？もっとわかりやすく伝えていって欲しいと思う。	●		●	●	●	●	●	●
どの職種の方々も苦しんでいると思うが、今後こういった芸術関係で食べていくことが難しい時代になるかと思うと、それを娯楽として楽しんでいた人もつらい。　大きくみたら芸能関係全般が崩壊しかねると危惧しております。	●		●	●				
小規模でも、劇場や野外での公演が可能になれば嬉しいです。	●							●
高校演劇部の顧問です。今年度の活動再開の計画がたたずに困っています。色々な方の協力でなんとか今年も公演の機会を作って欲しいと思っています。	●	●	●	●	●			●
今までは単に受け手として楽しんでいただけの芸術活動ですが、お世話になった方々に声をかけてもらい、自分も作り手の一員として新たな一歩を踏み出そうと、挑戦し始めていた矢先でした。　私の場合、金銭面で困っているわけではありませんが、芸術という文化的資本の価値がないがしろにされてしまいそうな世相を心苦しく思っています。	●	●	●					●
収入源としての芸術活動を行なってはいないが、人生の１つとして大切にしている活動が演劇です。　所属団体の予定していた公演が中止せざるを得ない状況になり　今後の活動にも少なからず影響が出てきています。　各種イベントの公演中止に対する補償が団体、公演施設、それぞれにあることで次に繋げていけるのではないかと思います。　クラウドファンディングなどで支援を求めていますが、それだけではなかなか難しいのが現状です　災害や緊急事態での中止延期になった際に金銭的支援が少しでもあることを願います	●		●					
発表の場	●			●		●		●
司会業ですが、毎年定期的に行っているイベントやセレモニーなどの仕事が９月まで全てキャンセルになっています。イベント業界では、年内は開催は難しいのではないかという話も聞こえてきていて、今後どうなるのか見通しがたちません。　持続化給付金だけではなく、休業要請に応じた飲食店への補償のようなものがあるとありがたいです。						●		●
劇場の舞台上、観客、客席、楽屋、舞台袖でのソーシャルディスタンスはどうなるのかが心配	●		●					
どんな状態にあっても　もどう対応するか　心の豊かさ、想像力が大切と感じたこの機会です。　教育で美術、音楽の時間を減らしてきたら日本は、今、その大切さを認識すべきであり、　心の豊かさを担う芸術の役割は大切であると思うため、　授業時間を戻すなど　教育での芸術の大切さを考え直してほしい。　そうして、そうした活動に連携して　いける文化施設は大切なので、　誰でも利用できる環境として　しっかりとその活動を維持できるようにしてほしい。	●			●				

個人　Q17. ご意見をぜひお聞かせ下さい。 **（伝えたい現状や、新型コロナウイルス感染拡大に関する支援策に限らず、どのような支援策があれば、団体・事務所の活動を促進するのか、助けになるのか等）**	Q11. 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、現在困っていることは何ですか？（複数回答可）							
	創作発表の機会が失われたこと	創作発表の意欲が湧かないこと	創作発表の準備や稽古ができないこと	札幌市内・近郊外への移動の制限があること	自身の研鑽や後進の指導ができないこと	生計の見通しが立たないこと	補償や給付金などの支援策がわからないこと	活動再開の判断が難しいこと
リモートでやれば良いというような流れでの解決にはなってほしくない。　表現者それぞれ得意とする見せ方や持ち味があると思う。　自分の場合は、生で見せる面白さを大事にしているし、生で芝居を見る面白さを知ったから続けている。　だからこそ、そういう活動が可能になる為の支援をお願いしたい。　劇場費や人権費などを負担しますよ。　というだけでもやれる希望は生まれる。　作品作りの中でかかる美術代や道具代まで負担して欲しいとは言わない。　それは、それぞれの団体が予算の中で考えて行ったら良いと思う。　活動をしていて、頭を抱えるのは大方場所代と人権費だ。　テクニカルの人にかけるお金は捻出できても、役者へのお金まで中々捻出出来ないのが今の演劇活動の中での悩み。今まででもそこが厳しい中でやりくりしている中で、本来入れるキャパよりもお客さんも減らして行うとなるといよいよ公演なんて打てない。　せめてそこをサポートしてくれるような支援があると希望が持てる。	●	●	●	●	●			●
発表会を延期の為劇場の来年3月までの空き状況を確認しましたが、全く空いておず、開催を断念しました。100～400人が出演できる規模の劇場(舞踊、演劇等)が増やして頂けたらた思います。	●		●		●			
コロナの影響により世の中が大きく動いたことによって、それに対応しつつ必要であれば、新しいムーブメントを起こしていくことが重要。　それに対しての支援があれば良いと思います。	●			●				●
展示場所の確保	●			●	●			
芸術やエンターテイメントなくして、生きていくことは難しい。　どんなに大変でも辛くても、心を動かす芸術、エンターテイメントがあるから頑張れるはずです。　それらが時代を、人を作っているはずです。　国がもっと芸術やエンターテイメントに対して保障や地位の向上を進めていただければと思います。	●	●	●					●
・活動のためのガイドラインが出ること ・特効薬等で、コロナが終息すること		●	●	●				●
社交ダンス教室に勤務している。営業は再開した。スタッフも複数いるのでまめにマメにミーティングをして協力してやっている。すぐには生徒数は望めない。オンラインレッスンは、社交ダンスでは難しい。　必要だと考えるのは、生でもオンラインでも良いので、ダンスを披露して収入になる事。　そもそも社交ダンスの認知度を高める事(今までもやってきた事ではあるが)。　競技会の無観客試合が可能になるかどうか(無観客だと場所代等で赤字になるので)。	●					●		●
・アート団体や事業所に属していたり、仲間が居る等、そういう場所や空間に属さない私の様な個の作家たちはどう生きれば良いのだろうか ・コロナの損害についてマクロな支援は明確で豊富な印象だが、ミクロな支援が乏しい印象である。　・卒業後の作家達の活動や作品を各道内の美系大学・専門学校を通し広めたり出来ないだろうか ・どこに支援とチャンスがあるというのも知れたら嬉しい。　→Twitter で道内作家を無作為にフォローしたアカウントなど作り、一律に情報発信する様な分かりやすさがあれば、個の作家達が救われるかもしれない。今回アンケートもTwitter上で知り感動した。　私は札幌市の飲食店にて働きながら作家活動をしている。仕事が仕事なだけに手取りも少なく貯蓄は勿論ない。　今まで道内でグループ展に参加し個展もしてきた。公募展に参加し、それら全てから「貴方の絵見た事がある」と知ってもらえる機会へ繋がり制作の励みになっていた。　今回コロナで昨年から決まっていた三つのグループ展、公募展が延期・中止となり、「観る人・作家同士の繋がり」が断たれた。　この目に見えない「繋がり」は支援に変換すると一体何になるのだろうか　グループ展や個展にて販売可能な場合作品販売をし、作品が手元から旅立ち利益が出た分はまた画材や額代へと成り、すべて循環していた。　その資金も無く、仕事も自粛、恐怖が勝り絵を描ける心身で無くなってしまった事が辛かった。　現在は7月に行う展示に向け作品作り、遠隔のデザイン講義に参加などしている。　これから先、表現活動がコロナ第二波第三波によって潰されるだろう事が予想される。息の長い支援を希望したい。　このようなアンケートを作って下さったことに感謝してやみません。　ありがとうございます。	●	●		●		●	●	●
デザイン関係は今後企業の経営状態によって、さらに落ち込みが懸念されます。　その際の支援策の申し込み枠の増加（補助金など申し込みが増えていて通るのが難しそうという意見が聞こえてくるので）や申請しやすい制度（書類等）になってほしい。				●				
文化芸術に関する当事者は勿論業者にも手厚い支援が必要です。創作発表活動を手厚く支援をしてほしい。　札響は絶対に無くしてはいけません！	●			●				●
北欧、アメリカ、韓国のアーティストと美術交流展を相互に推進しています。彼我の文化の尊重と理解のためにも、是非とも継続したいと考えております。　交流展の経験をとおして、日本の国家はアーティストに対する理解と支援のレヴェルが低すぎると痛感しています。平時はもとより、収束した際には交流にかかる経費に手厚い助成をしていただきたいと考えます。	●							
一日でも早く創作(主に演劇等)活動並びに日常生活が送れるよう、政府及び関係機関に支援等の体制を整えて頂きたい。	●							
強過ぎる自粛気運を収める世論。	●		●	●	●			●
私はただの一、芸術活動者であり　生活面で大きく影響を受けたわけではありませんが　劇場やその他私たちの表現発表を支えてくれていた場所への損失を思うと心苦しいです。　芸術が生活必需品ではなくとも、　人生の潤いであるとひしひしと感じております。　早く終息することを願いながら　新しい形での表現方法も模索する日々です。				●				●
当面の経済支援は必要。そのほか、恒常的に芸術活動を支える環境を再考していただきたい。　たとえば、公立ホールでは、募金活動が出来ない。これでは自助努力も、市民の芸術サポートも難しい。　条例レベルでの改善を求めます。	●	●	●	●			●	

個人　Q17. ご意見をぜひお聞かせ下さい。 **（伝えたい現状や、新型コロナウイルス感染拡大に関する支援策に限らず、どのような支援策があれば、団体・事務所の活動を促進するのか、助けになるのか等）**	Q11. 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、現在困っていることは何ですか？（複数回答可）							
	創作発表の機会が失われたこと	創作発表の意欲が湧かないこと	創作発表の準備や稽古ができないこと	札幌市内・近郊外への移動の制限があること	自身の研鑽や後進の指導ができないこと	生計の見通しが立たないこと	補償や給付金などの支援策がわからないこと	活動再開の判断が難しいこと
参加団体に施設費用などの負担がない、施設（劇場や公的施設）主催の演劇祭	●		●					
教室、展示会を再開するにあたっての、生徒、参加者の安心をどう得るのかが知りたい。	●	●	●	●	●	●	●	●
そういったことも未だ見当がつかない状態です		●	●	●				●
表現の根拠、ヒントとしての民俗芸能を正しく理解させるフィールドワーク、データの編集、発信と自分なりの創作をしているが、動けないので、それについてのポストコロナを踏まえた提言の本を出版したいと考えている。支援があればありがたい。札幌市民です。	●	●	●			●		
自宅には広いスペースや鏡がない為、十分な練習が出来ない他、モチベーションが保てない。狭いスペースでも出来る、舞踏技術や体力、筋力を落とさない（できれば向上させる）為のエクササイズレッスン、モチベーションを保てるシステムがあると嬉しいです	●		●	●				
私は今年就活生の専門学生です。大道具・舞台美術系の仕事をしたいのですが、担任にコロナ不況の中で演劇関係の会社に就職するのは困難と言われたため希望とは違う職種の会社を選ぼうか迷っています。しかし未だに大道具制作をしたい気持ちはずっと変わらず、就活浪人しても演劇に携わりたいとすら思います。　また、演劇関係の求人広告を探し出すのが難しいと感じるので、就職情報を紹介するサイトがあると便利で、演劇の仕事に関心を向ける人が増えるのではないかと思います。	●		●	●			●	●
雇用の確保。						●	●	●
今はまだ、観に来てと言うことが大切な人を危険にさらす事だと思う。何かを表現する事の中には、人としてどう生きるべきか、ということが含まれているはずで、表現活動を人に観てもらいたいという事とは矛盾するかも知れないけど、今は大切な人を劇場に呼ばないことが、まだ人としての道と思う。私は、他人を危険にさらさない企画（オンラインで集まっての稽古、各自撮影、編集、公開、というもの）など自宅で出来る創作に参加予定です。	●			●				
文化芸術活動に限らず、基本的な個人への支援(単純な金銭支援)が足りなさすぎるのが問題だと思う。			●	●		●	●	●
劇場再開にあたる、方針、及び公演の際の金銭的支援	●		●	●				●
活動するための線引きを明確にし、ガイドラインを作っていただきたい								●
違う業種とのコラボで商品販売　その一部を支援へ。　オンラインを使ったライブや演劇などでしょうか。　このくらいしか浮かびませんが…	●			●				
困っているというより、迷っていることなのですが、　ソーシャルディスタンスを保った客席づくりを想定した場合、一公演あたりの客数が従来の半分以下になってしまいます。劇場などの使用料は変わらないと考えられるため、実質収益が半減しますが、それをチケット代に転化するのか、規模を縮小するなどの対応が必要なのか、判断が難しいです。	●		●		●			●
作品発表の場が公的な施設(札幌市民ギャラリー)を利用しているのだが、それぞれの特質を考慮されることなく市の方針により一律に休館になり使用できなくなってしまいました。しかもその決定が遅くポスターやパンフ・入場券など全ての印刷物が準備されていたにもかかわらず、全てが無駄になってしまった。	●	●			●			●
バンドなど複数人で一緒に練習するための場所を確保するのが難しくなりました。　緊急事態宣言解除後もコロナ騒動前の経済状況にすぐに戻る可能性は低いと思うので、戻すための呼び水としていま実施中の特別定額給付金を1回だけでなくあと1～2回は実施していただきたいです。　音楽家に関して言えば現場だけでなく在宅での作業も多いと思うので、賃貸の住居に住んでいる人に対しては自宅を事業所とみなしての家賃の援助をしていただけたらと思います。	●			●		●		●
自治体及び業界の自粛緩和ガイドラインの作成と周知								●
私は自身が文化芸術活動をする上で経済的安定は絶対基盤です。その上で可能な限り文化芸術活動を生業にしようと常に考えて生きてきました。自身の活動は自身で時代に合わせて促進したいと思いますし、促進できなくなったら人生の終焉かなと考えています。どんな時代になろうとも、人間が人間である以上、文化芸術活動は無くならないと思います。時々で縮小することがあっても、人間に取って、必ず必要なものだと思うので。今の日本で最も必要なのは文化芸術の分野に限らず、活動の機会を奪われた小中高の学生を含め、若年層への支援ではないでしょうか？ 活動意欲の低迷や、技術不安を解消するための支援は絶対必要だと思います。例えば、文化芸術育成機関への支援、文化芸術の勉強のための助成金制度や、今後困難になる留学へのサポートも必要だと思います。	●		●					
業界の存続が危ぶまれる事態です。	●	●	●	●	●	●		●
休業要請支援金の充実	●		●					
野外ならコンサートをしても大丈夫だと思う、外で感染するなんて車に轢かれる確率と同じ	●	●	●				●	●
日本の元々の文化的活動に対する支援が少ないのかな、と思いました	●		●		●		●	●
私の読者は釣り人です。　ここのところの自粛ムードで釣り場も立ち入り禁止になったり、釣り人の車に張り紙して嫌がらせするなどの行為が見られます。　正義を振りかざして自警団のような振る舞いをする人のおかげで釣り人さんたちが困ることがないようにならないかと心を痛めています。　また大学で漫画の講義をしていますが遠隔授業ということでいろんな工夫が必要になりました。それは別にいいのですが、後に回した実習ができるかどうか見通しが立ちません。早く対面授業ができればいいのですが。					●			●
オンラインやビデオ配信が安易にイベントの代わりになると思わないで欲しい。ビデオ配信・視聴が厳しい環境の人もいるし、単純にそういうツールが嫌いな人もいて、音楽だと生演奏の良さなんて1/100も伝わらない。安易にオンラインイベントに切り替えようとする企画が多すぎて辟易としています。	●	●	●	●	●			●
ちょっと営業を再開してからでないと見えてこない部分があると思うのでなんともいえないです。対策というか世間の風潮（密が恐ろしいというような）が変化するといろいろ変わっていくかなとは思います。	●	●	●			●		●

個人　Q17. ご意見をぜひお聞かせ下さい。 **（伝えたい現状や、新型コロナウイルス感染拡大に関する支援策に限らず、どのような支援策があれば、団体・事務所の活動を促進するのか、助けになるのか等）**	Q11. 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、現在困っていることは何ですか？（複数回答可）							
	創作発表の機会が失われたこと	創作発表の意欲が湧かないこと	創作発表の準備や稽古ができないこと	札幌市内・近郊外への移動の制限があること	自身の研鑽や後進の指導ができないこと	生計の見通しが立たないこと	補償や給付金などの支援策がわからないこと	活動再開の判断が難しいこと
合唱団の指導をしていますが、まずは練習が出来ないことが最大の悩みです。練習会場、演奏会場の保証が無ければ衰退あるのみです。	●		●	●	●			●
音楽(合唱)活動再開ガイドラインを作成するにあたり、室内環境学会や医学会からの専門家意見聴取のための経費。	●		●					●
演劇部所属の高校生(対象になっていたかわかりませんが)ですが、高文連がどうなるか不透明で、準備もできず不安です。舞台に立ちたいです	●		●		●			●
ダンスの大会が中止になり練習に身が入らない。ダンス教師の仕事がほぼ0になり収入がたりない。	●	●			●			
公演の中止により、既に振付をしていたものも会費等を返金しました。　イベントの半年以上に渡り企画していたイベントも場所代、飛行機代、チケットフライヤー諸々キャンセル料もかかるなど、コロナウィルスによる自粛で金銭的に負担が大きくかかりました。　開催している場合に収入になったものも入らなくなりました。　なので、一部であってもそういった保証があると有り難いです。　このまま全てが自粛という形ですと、保証もなく自分達で自粛をするという判断ができなくなってくるのではないかと思います。	●		●	●			●	●
施設の防疫対策費用の助成など　ソーシャルディスタンス分の舞台の客数から空き席のチケット代の補填になる様な支援策	●		●	●	●	●		●
合唱・歌唱活動の再開及び練習の仕方に関するガイドラインを求めています。（合唱はそもそも練習環境が典型的三密環境）	●		●		●			●
コロナ収束後、延期・中止になった展示と同程度の作品展示の場が欲しい	●		●	●	●			●
現状においては経済的・活動的には支障ありませんが、普段より1年前、2年前に計画または受注した仕事を行なっているため、来年、再来年の経済的停滞に備えなければいけないと思っています。　現在の経済状況によって、この先の受注状況が大きく変わる可能性が高いと思っています。　そのため、web、動画等のオンラインでの発信のサポート、テクニカルな支援があると助かると思います。								●
私自身の金銭的問題は少ないのですが、お世話になっている劇場や応援している俳優さんたちが大変なことになっているのを見ていて、とても心苦しいです。　緊急事態宣言解除になっても、稽古でも本番でも人が密集する演劇はいい目を向けられないでしょうし、安全のためにできることと言っても限りがあります。　私は演劇というものが好きなので、舞台を作りたいし舞台に立ちたいです。何ヶ月もできていなくて心ぽっかり穴が空いた気分でいます。作り手とお客さんの間にできている溝を埋める手段がもっと欲しいと、とても思っています。	●		●	●				●
本来の定員の半分以下、消毒や検温、ソーシャルディスタンスを確保して、個人の特定などができている場合など、小規模な公演を認めてほしい。	●	●	●	●	●			
演劇を上演できるようになっても集客が見込めない、流行前の状態に戻るまでどれくらいかかるのか。お金とは別の部分で不安が消えない状況。	●		●					●
札幌市内や近郊の会場を借りて子供達のレッスンをする際、会場が午前、午後、夜間の3区分の為、夕方から夕食迄(例：16時から18時など)の時間帯で借りる事が難しく、出来れば、2時間～3時間単位で借りる事が出来ると助かります。			●		●	●		●
合唱練習に必要な、新しい生活様式を知りたい。気を付けるべき点など。			●	●				●
特にありません				●				
今後パソコンなどの機器を使って演奏を配信していくことが考えられるが、音響機材など一から個人で準備するとなると金額や技術が追いつかないので、演奏者と技術者を結びつけるようなことができたら良いと思う。	●		●	●		●	●	●
演劇は、今回の状況があってリモートによる稽古や座談会だけでなく、朗読や公演も行うことが出来ている。なので、むしろポジティブに考えて、演劇というものの敷居が低くなったと考えるべきではないだろうか。　そして、終息し、また劇場で公演が出来るということを味わえればいいと思う。今は耐えるというよりかは、新たな手段を模索し続ける時期だと思う。	●		●	●				●
緊急事態の解除によりお店が再開できたとしても、完全な終息になる見通しは立っていませんので、以前の状態に戻るまでにはおそらく1年以上はかかると思います。その間の家賃の支払いが最も大きな問題ですので、特に強い支援策を早急にお願いしたいと思います。フランスなどでは このような緊急事態とは関わりなく、ライブハウスなど文化芸術活動に関係するお店に対して国からの補助金が出ているということです。北海道は特に観光事業に力を入れているわけですから、　もっと文化芸術活動への支援に力を入れるべきと思います。国内外からの観光客が求めているものは単に美味しいものを食べたり飲んだりだけでなく、心に響く芸術や文化との出会いを求めています。　札幌を拠点に活動を続けている素晴らしいミュージシャンの皆さんが、より良い環境の中で芸術活動に励むことができるよう　色々な形の支援策を考えていただきたいと念願しています。	●					●	●	●
稽古再開、活動再開に対する、世論の安心を納得させられる指針。			●	●		●		●
個人の団体の支援を優先してほしい			●					
バンドをやっているのですがライブは今年一杯全部中止、スタジオ練習の目処も立たなくてどうやって無駄な人生にならないか模索中です。とりあえず20歳という大事な1年が無駄になりました。	●		●				●	●
自分の活動の場もそうですが、生きがいが極端に減りました。ライブハウスに悪いイメージもつき、どうか払拭してほしいと願うばかりです。	●		●					●
団体用アンケートの方に記載しました。	●		●	●	●			●
個人的には、一律給付金10万円と持続化給付金によって、経済的には十分すぎる支援であり、これ以上求めることはありません。　　また、舞台は生で見るものであり、映像で配信するものではないという認識ですので、無観客でのオンライン公開というものは考えておりません。								

個人　Q17. ご意見をぜひお聞かせ下さい。 **（伝えたい現状や、新型コロナウイルス感染拡大に関する支援策に限らず、どのような支援策があれば、団体・事務所の活動を促進するのか、助けになるのか等）**	Q11. 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、現在困っていることは何ですか？（複数回答可）							
	創作発表の機会が失われたこと	創作発表の意欲が湧かないこと	創作発表の準備や稽古ができないこと	札幌市内・近郊外への移動の制限があること	自身の研鑽や後進の指導ができないこと	生計の見通しが立たないこと	補償や給付金などの支援策がわからないこと	活動再開の判断が難しいこと
劇場で公演ができる基準が明白になってほしい	●		●			●		●
個人教授に対する支援策	●		●		●			
もうこんな状況が来なければいいな。ネット活動は苦手なので。なんかみんなネットの世界に引きずりこまれてる印象が強いです。悪いと言ってるわけではなく生身の人とのやり取りが好きなので。			●					●
基本独立なので活動に援助は不用です。ただ演奏の場所、ライブハウスやスタジオなどのインフラへの援助は不可欠です。	●		●	●				
ある意味　この機会が良い転機になることを　願います	●						●	●
作品展示の場が今後どう変わっていくか、どのように対応していけるかの指針	●			●				
自分自身の活動は直接収益に大きな影響はないが、企画においてはプロも相手にしているので、東京都のロードマップのように「なんの努力をしてもライブハウスの自粛解除は認めない」という発表は納得いかない。人と会うのを8割減ずるのではなく、人と会っても感染確率を8割減ずるにはどうするかという検討があって良いと思う。行政がもっと広く専門家の意見を聞くべき。京都大学藤井聡教授や宮沢孝幸氏のリポートは音楽活動だけではなく経済活動全般に活かされると思う。	●		●	●				
正直、どうしたら良いか現時点ではまだ何も浮かびません。	●			●		●		●
当分は動画配信・オンラインでの活動が主になるかと考えています。ただ動画での配信（無観客）で上演のモチベーションを保つことができるかは問題です。　また動画での配信をするにあたって、生の臨場感を伝えるにはきちんとした映像制作者との連携が必要です。さっぽろアートライブなど補助金も出ることになりますが、きちんとした物を作るとなると、それだけの費用がかかってくるため無観客配信でどこまで収支バランスをとっていけるか課題になってくると思います。舞台制作側の人間も、映像配信を前提とした仕掛け・演出を学んでいかねばならないと思っています。			●					●
舞台芸術の応援が目を向くような情報を　発信してほしい。	●	●	●		●			
SDCの活動については、困ったら声を出すことができるのでありがたいのですが、せっかく1年続けてきたアイヌ語講座が手探り状態です。集まることがリスクになるというのは本当にストレスです。正解はないとは思いつつも、どうやっていったらよいか考え続けています。	●				●			●
ライブハウスなど発表の場がなくならないような支援が必要。								
国からの毎月１０万円の給付		●	●					●
現在の状況で、芸術活動が制限されるのは仕方のないことだと思いますが、一日も早いワクチンの開発と同時に活動できない多くの芸術家、また舞台に係る方々への支援がもっとあると、収束後の活動を円滑に行えると思います。	●	●	●	●				●
発表の場となるライブハウスが危機にあります。早急な支援をお願いしたいです。	●		●	●				●
アートカウンシルを設立し、バラバラな感じがする道内の文化芸術事業を繋ぎ連携させ、より大きな事業にしていく。事業が拡大すればアーティストたちにも還元できる。そして地域にも経済効果を生み出し、道民にも愛される。そんな組織が必要だと思う。			●					
先ほどの回答にも記しましたが、劇場が再開できたとしても、今までと同じようにお客様が観に来てくれるようになるか、不安です。　国のガイドラインだと、かなり空席を作らなければならない、満席にできない。　となるとペイするには公演回数を増やす、劇場入り日数も増やすことになる。　それなのに劇場費用が今までと変わらずだと、支出ばかりが膨らみ、まともな公演ができなくなる事につながると思います。　なので、劇場の費用、物件費用などの減額を考慮していただきたいです。　また、この先のネット配信に備えて、各劇場にネットワークの整備が必要だと思います。　無線では限界がある上、質が落ちるかと思うので、有線の整備が望ましいと思います。　劇場利用者が無料でネットワークを使えるよう配慮もお願いしたいです。	●					●		●
先が見えない不安はあるが、この職業の場合、常にある程度覚悟はしていること。展覧会や発表を前提とした制作のサイクルから解放されて、何の為に作品を作るのかを考える時間が出来ている。	●			●				●
コロナ渦の中、公演を延期・中止にした団体への十分な補償を求めます。	●		●					●
日本という国そのものが文化等に関わる物への関心がそもそも非常に薄いと感じる、今だからこそこういった活動で生計を立てていこうとする人間を補助するべきではないかと思います。	●			●				●
このまま世の中の状況があまり変わらないようであれば、助成金を一度だけでなく、何度か支給してほしい。	●	●				●		
支援策が出てきても、結局「条件」があって使えないので困っています。								
アマチュアの吹奏楽団に所属しております。　練習は大きな音を出すため、自宅では練習もできずしばらく楽器ケースから出していません。　個人練習できる場所を確保したい。(カラオケ施設など、1人なら使わせてほしい)　団所有の楽器保管のためあけぼのアート＆コミュニティセンターを借りており、家賃がかかっているため、活動休止してからも維持のため所属団体から団費は徴収されている。なにも練習できないのに！　現在は秋の演奏会に向けweb上で楽譜を受け取り、印刷しましたが楽譜を眺めるだけです。合奏どころかパート練習もできず、ただただ演奏会が近づいています。　有料でいいので安心して個人練習できる場所を提供してほしい。	●	●	●	●	●			●

個人　Q17. ご意見をぜひお聞かせ下さい。 **（伝えたい現状や、新型コロナウイルス感染拡大に関する支援策に限らず、どのような支援策があれば、団体・事務所の活動を促進するのか、助けになるのか等）**	Q11. 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、現在困っていることは何ですか？（複数回答可）							
	創作発表の機会が失われたこと	創作発表の意欲が湧かないこと	創作発表の準備や稽古ができないこと	札幌市内・近郊外への移動の制限があること	自身の研鑽や後進の指導ができないこと	生計の見通しが立たないこと	補償や給付金などの支援策がわからないこと	活動再開の判断が難しいこと
文化芸術に関わる者は、日常全てがクリエイティブに繋げるための積み重ねであるにも関わらず、今回の件で政府の見解が明らかになったように、文化芸術は、ほぼ無くても良いものと考えられており、また、それに賛同する一般の方のご意見も多く耳にしました。人それぞれにもちろん価値観はあって当然ですが、このままの意識ではまるで文化遺産を破壊して回る武装部隊の意識と変わりはありません。今後の日本で、今までの歴史が作り上げてきた芸術文化をずっと紡ぎ続けていくためにも、芸術文化の教育や国家による芸術文化に関わる者全てに対する地位や社会的保護の方向性をよりよく変えるべきです。それが、私自身を含め、芸術文化に携わる全ての方の根本的な助けになると思います。	●			●				
http://www.misashin.com/exhibitions/misa-shin-gallery-online-project/　参照下さい。　展覧会等は避けて下さい。								
私は個人で野外やライブハウスの企画、運営をしています　今年はお祭りも中止の告知が相次いで発表されています　どうか　昨年同様の粗利支援があると助かります						●	●	●
自分自身はコロナよりも家庭の状況の影響で芸術活動に本腰を入れられずにいるが、周囲の友人の芸術活動の様子は非常に厳しい。　中止となった公演等に対し、公から全額の支援が難しいとしても、すでに支払った額・今後必ず支払わなくてはならない額分程度の保障はあってほしい。　また、劇場やコンサートホールなど発表の場に対して、持続化だけではなく安全性を高めるための保障も行ってほしい。	●		●	●	●			●
アート学生のビジネス創出に対する費用的補助								●
給付金を半年間くらい出して、生活を安定させて欲しい。								●
・収入、生活について　配偶者が一般会社員であり、幸いにも収入に変化がなかったため、なんとか生活できているが、コロナウイルスの影響により私の収入は完全に無くなったため、もし独身だったらまったく生活できなくなっていたであろうと思う。 ・リモートでの仕事の可能性について　私は合唱指導を生業としているが、合唱は特に集まって稽古をしないと形にならない芸術活動であり、リモートではレッスンするのが難しい。ZoomやGoogleミートなどを使ったオンラインレッスンの可能性を模索してみたが、それぞれのメンバーに全員の声が聞こえないこと、音にタイムラグがあることにより、レッスンにならない。タイムラグが無く、全員が全員の音を共有できるシステムが開発されると嬉しい。 ・合唱は、岐阜の合唱団でクラスターが発生したこともあり、活動を再開する判断が難しい。どのような方法を取れば再開して良いのかのガイドラインが欲しい。これはおそらく全日本合唱連盟も出そうとしているはずであるが今のところまだ何も発表されていない。現在のところ私の指導している5つの団体全ての活動がストップしており、いつから始められるのか、全く先が見えない。　（下の行に続く）	●		●		●		●	●
（続き） ・すでに演奏会を開催する予定でホールをおさえている団体も2つあり(hitaruとカナモトホール)、これをどうするか(無観客で演奏して配信するのか、その場合観客からの収入が無いので全て持ち出しとなってしまうがそのホール料金をどう調達するのか)など、今後の対応を検討しているが、ここに助成金や、ホールからの援助？(たとえば無観客で公演を行い、配信する際は、ホール料金を何割引にしてくれるなど)があると大変に助かる。　全く観客収入無しに、本来と同じ形で公演を行うのは、費用的に厳しい。　しかし無観客であっても演奏して配信するなどの手段を取っていかないと、演奏する側も演奏する技術を維持することが難しく、また、世間に音楽を提供する場を失ってしまう。そうなってしまうと、クラシック音楽という、世界的に保持していくべき無形文化財が衰退してしまうことが危ぶまれると考える。	●		●		●		●	●
クラウドファンディングやテイクアウト購入・課金などは、同じ感染環境下にありながら自分としても応援したい存在に対して協力しているものですが、その数や活動自体が把握しきれてなかったり間に合わなかったり自分に余裕がなかったりと不完全な参加に歯痒さも感じつつ微力ながら参加していますが、このさき長期に渡ると限界を感じることもあるな、とか、　自分自身の活動にはそういった要請はしづらいなあといったアンバランスを抱えている、そんな現状です。　自身については工夫が足りないのかもしれませんが、資質とか性格によるものかもしれませんし、同じような考えの人と思いを共有することで少しは考えも進もかもしれません。　個で(孤独で)はない交感の場が直接間接に関わらず増えていくといいですね。	●		●		●		●	●
たまたま5月時点までは、演劇の公演出演のオファーをほとんど受けてなかったので、アルバイトを多くしていました。しかし4月に入り、お世話になっているアルバイト先の会社が新型コロナウィルスの影響を受け、収入が半分になり今月の給料からかなり厳しい状態です。　下半期から、公演出演のオファーを立て続けに受けていて、公演中止になると収入が1／3あるかどうかという状況になります。	●		●		●			●
金銭的な援助						●	●	
1日でも速やかに日常に戻る活動を促進したい。	●							
健常者の表現活動だけではなく「知的障がい者の表現活動・演劇活動」も厳しい現状です。スタッフの知恵を集めていますが経験のない事態に困惑しています。北海道に限らず広く情報を集めて安全な活動の方法など知らせてほしいと思います。	●		●		●			●

個人　Q17. ご意見をぜひお聞かせ下さい。 （伝えたい現状や、新型コロナウイルス感染拡大に関する支援策に限らず、どのような支援策があれば、団体・事務所の活動を促進するのか、助けになるのか等）	Q11. 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、現在困っていることは何ですか？（複数回答可）							
	創作発表の機会が失われたこと	創作発表の意欲が湧かないこと	創作発表の準備や稽古ができないこと	札幌市内・近郊外への移動の制限があること	自身の研鑽や後進の指導ができないこと	生計の見通しが立たないこと	補償や給付金などの支援策がわからないこと	活動再開の判断が難しいこと
私自身は、基本的には個人で仕事をすることが多いので、仕事がない場合でも、収入はないにしろ、仕事に関連する大きな出費はないため細々と生活することはでき、また、個人的な練習や制作など仕事に関連することで時間を過ごすことができましたが、家賃や維持費のかかる方や、劇団など集まらなければ活動の難しい方は、より厳しい状況かと思います。　今回のコロナ関連のことで、芸術などに関する活動が「不要不急」という言葉で括られてしまいがちだったのは、心の痛むことでした。　自分の感覚として、生命が優先するのは当然として活動の休止は受け入れていましたが、芸術や舞台などの活動が、今後、社会の中で、至急ではなくても大切なものとして捉えていただけるよう、そして小さな活動が様々あることを知っていただけるよう、組織的なバックアップもあると心強いかとも思います。	●				●			
聴いてもらう方、聴く方両方の立場になる事がある訳ですが、どのように予防策を検討すればいいのかが、わからないので、雛形が欲しいですね。	●		●					●
今後しばらく続く混乱で再開しても会場に客を入れるのには制限がかかり、満席にはできない。収益が取れないのでその際のだいたいあんや支援が欲しい。　例えば、公演回数を増やして客の人数をトータル合わせるが、その分の経費を補助するなど。	●	●	●					●
コロナの感染者が多い札幌市在住なので道内地方都市に行くと迷惑になりそうで、外出を自粛している。地方での活動できずに困っている。			●	●				
今までは道内のイベントで活動していましたが、今後ネットショップで自分の作品を売る事を検討しています。　それは全国的にも同じ流れで溢れています。　と、なると、検索してもなかなか自分の作品がヒットするのは難しいと思います。　道内の飲食店支援のサイトがあるように、道内の作家を支援するサイトがあるといいのかも。	●			●		●		●
オンラインでお祭りやイベント（日程を限定して）が１つでも大規模で行われたら面白そうだなーと思います。	●			●				
4月上旬から個展を開催、3日目で緊急事態宣言によりギャラリーが休廊。6月から延期再開予定ではありますが、その間兼業の職場も休業し丸二ヶ月の収入がほぼゼロです。(職場は休業補償が出る予定ですが、金額が不透明)　個展も当初見込んでいた来場者には到底及ばず、再開後もどこまでやれるかという状況です。それに伴い作品販売数も伸びていませんが、過去の実績がないだけに数値化して訴えることが難しいです。　2020年に入ってから、作家としての収入が伸びる事を想定して開業届を出してしまった為に、今後失業保険を受給することも叶わず、かといって昨年の売り上げ実績がない為に個人事業者向けの手当てには対象にならない状況です。　2019～2020年に開業し、様々な手当ての支払い対象にならない事業者の方は多数いらっしゃるのではないでしょうか。狭間に取り残されてしまった方々への新たな支援ができて欲しいです。	●						●	
芸術事業全般について、行政(国　地方自治体)の主体的政策の提示が待たれる。衣食住と同じく公共財としての芸術政策が必要なことを強調したい。かって１９７０年代の原理論にいまいちど学び直すことが肝要と思います。決して懐古的な提案ではないと思いますが。５月２１日(北海道新聞　共同配信？)、岸本聡子氏の論調がそのまま芸術政策のいまを言い当てています。					●			
経済活動と文化活動が一体となりすぎて、文化も消費される物になってしまい、創作の奥深さを作る時間が足りなくなってしまいそう。								
作家活動をしている方々にコンペ、コンテスト、応募などのイベントの情報共有など、文化芸術活動をいろんな人たちに広めたい。	●			●			●	
道に要望しても、知事はほとんど決定権を持ちません。政府に対して、消費税減税や政治家の給料削減、国民の税金からの対策を止める、など実施してもらうことを切望します。これまでも多くの国民が声を上げてきましたが、届いていません。　しかし、膨大に集まれば、実現することもわかりました。　そのためには、北海道の文化芸術関係者の運動を分散させず、最大限一丸となることが重要かと考えます。		●						
札幌市の外郭団体の職員です。固定給なので現在は困っていませんが、事業ができておらず収益が途絶えたことで今後必ず給料が下がると思います。それは甘んじて受け入れるとしても、今後事業を続ける方策、オンラインや感染対策にかかる経費を市が援助してくれないと、座して死を待つようなものになります。自分や仲間が解雇されることも心配です。				●		●		●
新しい劇場を準備しているが、団体・企業、個人からの支援が先行きが不安	●			●				●
音楽祭のボランティアで直接の主催者ではありませんので、ご期待に添えるような返答が出来ず申し訳ありません。　普段私たちの生活を豊かにしてくれている文化・芸術が止まってしまっている現状は残念でなりません。　弛まない努力と研鑽を積み重ねていらした方の発表の機会が失われてしまった事・生活に支障がでてしまっているのはやり切れない思いで、「支えたい・応援したい」と思っている人は沢山いるはずです。　広く寄付を募り、当然それだけでは十分とはならないと思いますが、以前の状況に戻るまでなんとか乗り切って頂けることを祈るばかりです。								●
音楽大学卒業生の若手でフリーで活動している人、音楽教室所属の人は教室が閉鎖のため、収入がほとんど無い状態です。支援がないと、後継者がいなくなってしまいます。	●			●	●			●
「好きなことして生きようとしてるんだから支援を求めるなんておかしい。自己責任だろ」という声が思った以上に大きくて驚きました。　私が自分の実力や経験不足で収入が少ないのは自己責任だと思いますが、コロナウイルスの感染拡大による自粛やイベントの中止、施設の休業などが原因の困窮でも「自己責任」と言われてしまうのが衝撃でした。　意見とは違う感じですが。感想です。	●	●		●	●			●
中止になった事業も多く残念だが、このコロナ禍を通してこれまで考え得ない可能性を考える機会となった。現在のところは前向きに捉えている。　専門が演奏活動なので、早く元通りアコースティックな音の魅力を共有できるようになることを願う。	●			●	●			●

個人　Q17. ご意見をぜひお聞かせ下さい。 **（伝えたい現状や、新型コロナウイルス感染拡大に関する支援策に限らず、どのような支援策があれば、団体・事務所の活動を促進するのか、助けになるのか等）**	Q11. 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、現在困っていることは何ですか？（複数回答可）							
	創作発表の機会が失われたこと	創作発表の意欲が湧かないこと	創作発表の準備や稽古ができないこと	札幌市内・近郊外への移動の制限があること	自身の研鑽や後進の指導ができないこと	生計の見通しが立たないこと	補償や給付金などの支援策がわからないこと	活動再開の判断が難しいこと
私は公演活動の他、指導も行っていますが（クラシックギター）、レッスンは１対１なので、マスク着用・アルコール消毒液・生徒との距離を保つことで、幸運にも、生徒の皆さんは休まずに受講してくれております。　しかし、楽器以外の、友人の声楽家・舞踊指導家などは、大変な状況にあります。文化庁など、様々な支援策を打ち出してくれておりますが、支援実現までの流れがもっと迅速であってほしいと願っています。	●							
オンラインで作品を発表することでEU-Japan Festから活動支援が得られ、地味に作家活動が捗ったりもしています。最近はオンラインでの発表が多かったので、コロナ機器をテコにできることもある、という（淡い）期待を抱きつつ活動しています。				●				
自分達の活動内容や作品を広く紹介してくれる公的な支援	●	●						●
スタジオ再開においての感染リスクについてや、感染対策への支援、世の中が舞台や芸術活動についての関心や、開催について批判的にならない状況にあるのか、子供達の安全を考えると再開して良いのか…　舞台活動とソーシャルディスタンスは成り立つのか、マスクをつけたまま踊るとこはできません、楽器を吹くことも出来ません、パートナーと踊ることは出来ません、客席を2席空けての舞台開催で成り立つのか…　報道では全くと言って良いほど芸術活動についての報道がありません、新しい生活様式での芸術活動は可能なのでしょうか、どのような支援で活動が出来るのかすら分からない状況です。	●		●			●		●
パートがあるので生活費の心配は当面ありませんが、活動再開資金は、2ヶ月あった無収入期間の生活費で使い切ってしまいました。　頂ける可能性のある給付金はこれから申請しますが、再開準備にはお金だけではなく時間も必要で、パートに時間と体力を削られる現況をそろそろ変えたい（パート従事時間を減らす）と思いますが、その為にはお金が心許ない、というジレンマに苛まれています。　また、札幌市の無観客公演支援は有難いのですが、今から準備すると、公演は早くても7～8月。通常公演が再開出来る可能性もある時期なので、無観客公演と最初から決めて準備するのも難しいです。お客様を入れても今まで通りの集客は難しいでしょうから、そこで生じる不利益の補填など、柔軟に対応していただきたいところです。そうなれば、日々変化する状況に右往左往する事なく準備出来ます。　また、お客様も経済的打撃を受けておられますので、再開したら経済がしっかり再稼働するまでは無料公演を積極的に行いたいと思います。そういった公演への支援も、無観客支援と同じだけ行っていただけると助かります。	●	●	●		●			●
日本において、芸術やデザインの価値が低く捉えられている。このような事態で大切なことは心の豊かさである。このような時ほど、芸術分野の価値を捉え直す機会でもある。ステイホーム期間は、家族との時間を味わったり、溜まった本を読んだり、日常の時間を捉え直す時間であった。芸術も商業としての機能だけではなく、もっと身近なもの、誰しも心の中に存在するものである。芸術の中身を考えるのには、良い機会であったはずだ。芸術家も鑑賞者もどのように時間を使ったかを振り返りたいところである。その振り返りの中で『いつものようにできなかった』ではなく、新しい提供の仕方も含めて文化庁も含め支援を共に考えてほしい。								●
芸術文化の広告を、地域でサポートしてほしいと思います。　チカホの画面広告等に出しやすくなるように、など…。	●		●		●	●		●
今の状況は健康と新型コロナウイルスの収束が1番大切なので芸術活動ができないこと、教室を運営できない事は仕方がない事だと思います。　ですが、それにより今後の芸術活動やスタジオの運営ができなくなってしまう事にとても不安を感じます。　私のスタジオだけではなく、芸術に携わるお仕事をしているたくさんの方達が直面している大変な状況だと思います。　ダンサーとして思うこと、今は我慢の時期ですがこの影響により、今後歴史ある大切なスタジオがなくなってしまうのではととても不安です。　できる限りのことをしていますが、今後の生活が見えません。　今すでにある支援策や頼ることのできる情報等、明確にわかると嬉しいです。	●		●		●	●	●	●
販売委託をお願いしている店舗も営業できていなかったので売り上げもゼロなので、材料の仕入れもできない状態まで追い込まれています。　ホームページも持っていないので、SNSで販売するくらいしか方法がありません。　給付金が出る事を願っていますが、ダメだった時は創作活動を続ける事が困難になるかもしれません。	●		●	●		●		
気をつけながら、再開することでしょうか。								
一刻も早く、舞台にたちたいです。	●		●	●	●	●		●
芸術活動や生活の支援に加え、税金の免除があると助かる。	●		●	●	●			●
…	●					●		
自粛は過剰。コロナ医療体制は改善すべき。豊かな人生に3密は欠かせない。	●		●	●	●	●		●
北海道二期会を支援したい。	●	●	●					
留学を目標にやっている以上、中途半端に就職もできないためアルバイトをしていますがこのような時にアルバイトの人に支援が全くないのは厳しいです。学生に関わらず、アルバイトで頑張っている人はたくさん居ると思うし、一律給付の10万円だけでは月給が高くない私でさえ休業期間や時短営業によるシフト減少の影響で、本来貰えるはずだったお給料より少ないです。	●	●		●	●			●
これまでどおりとは、いかないかもしれないが、普通にコンサートに足を運べる環境づくりが必要	●		●					●
10月の公演日(市の文化祭)に向けての公募(小中学生)のメドと稽古場の確保ができず、時が経つごとに開催が危ぶまれる現況にあります。	●		●		●			●

個人　Q17. ご意見をぜひお聞かせ下さい。 **（伝えたい現状や、新型コロナウイルス感染拡大に関する支援策に限らず、どのような支援策があれば、団体・事務所の活動を促進するのか、助けになるのか等）**	Q11. 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、現在困っていることは何ですか？（複数回答可）							
	創作発表の機会が失われたこと	創作発表の意欲が湧かないこと	創作発表の準備や稽古ができないこと	札幌市内・近郊外への移動の制限があること	自身の研鑽や後進の指導ができないこと	生計の見通しが立たないこと	補償や給付金などの支援策がわからないこと	活動再開の判断が難しいこと
演奏家においては高額楽器の所有と演奏力込みで自信のサウンド(価値個性)という方もいるはずです　衣装や個人所有の機材 音響機器等　収入が滞るとローンで購入している楽器を売却せざるを得ない人達も出てきます。道内であれば法整備も必要ですが北海道芸術財団等で一時的に自己破産及び返済が滞り前進できなくなっている演奏家の高額楽器機材等を預かり保管しておくことなども必要かもしれません(支払い能力不能の場合は自己破産等で差し押さえ等から免除してもらえるシステム等も構築するとか この場合の資産隠し等は犯罪行為にあたります 演奏家にとっては命の次にヴァイオリンが大事という人もいるとも思います)　大概の方はテナント 居住空間の賃貸契約 高額楽ローンで購入する際には保証人を立てます　返済不能に陥れば保証人や身近な親等内に支払い命令 督促状等が届き返済できなければ固定資産(住宅土地有価証券会社の経営権車輌)等の差し押さえ剥奪等に繋がり支払い義務のある人達で数珠繋がりに連鎖するでしょう 今回の件での失業者は300万人以上にもなりリーマンショックを超えるそうです 新コロナウイルスの問題は安全面を最優先に考え今まであたりまえだった娯楽を国民がこれからどう付き合うかを模索しどう欲求を抑えていくかという現実と向き合わなくてはいけないからです ですが6500万年前に直径15kmの隕石の衝突で恐竜支配が終わり現在霊長類ﾋﾄが地球を支配していますが隕石の衝突がなければいまだに恐竜が地上を支配していたそうです なので一演奏家の元にある門外不出場の楽器や高額な幻の美術品等が今回の件で市場に流れる切っ掛けになるのもある意味コレクターやバイヤー にとって一つのエネルギーの循環になるかもしれません （下の行に続く）								
（続き） 政府が何処まで現実的に生活支援をしてくれるのかわかりませんが演奏家の手を離れた高額な楽器や美術品等がオークションや市場を賑わすのもこんな情勢の醍醐味かもしれません　しかし西暦2100年迄に地球の人口は2億人ほどになり審判の日が始まったと唱えている人もいるようです　楽しい学校の行事も全て無くなりましたし今年カーネギーホールも運営はしないようです　Kitaraはどうでしょう?予定では秋から半年間の改修工事が始まる予定でしたけど 先ずは命の問題と向き合わなくてはいけないので演奏家のエゴで芸術メディアに無関心な人達の日常と生命を脅かすのはいけません 芸術側でない人達の生命財産を脅かさない範囲で法令遵守で運動するのも社会の一員としての道徳ではないでしょうか? 音楽は生演奏や新作等に頼らなくても過去の膨大な遺産が動画サイトでも楽しめます し学習する時間と個室で個人練習の追求 残念なことに今後コンサート イベント等は一切行われないと予想している人達もいますし収入に繋がっているかはわかりませんがすでに自宅から映像配信をして活動している演奏家もいます そして収入に繋がっていると思いますがアダルトがらみであれば億単位なはずです　私は音楽の側ですが宜しければ関連作品を動画サイトでお楽しみ下さい。 ＊回答者ご自身のwebサイトリンク情報は公開にあたり削除いたしました。ご了承ください。（担当者）								
情報提供は大切だが、溢れ交錯している状態の中から選ぶか（SNS）自ら知恵を絞って探しにいくか（新聞および検索機能）の2択だと思う。私は後者を選んだ。なおテレビは観ていない。若干苦痛になってきている。	●	●			●			
基本はCD制作やテレビ・ラジオ楽曲使用などの制作費・印税などが収入なので、個人的にそれほど変化はないですが、舞台の音楽制作などは入らないです。(舞台の仕事はそんなに多くないですけど) 。回りの舞台関係者の人たちは本当に大変そうなので早く自粛解除され、工夫しながらであれば観劇やライブも可能となる状況が認められたらいいなと願っています。				●				
落ち込んだ収入や経営を立て直すため知恵を提供してくれる、相談室、アドバイザリーサービス	●	●						
美術に関して言えば、広告費をかけた大きなオンラインギャラリーが必要になってくると思う。だが誰が最初に金を出し、システムを作り、運営するのか。だがきっと誰かがやらなければ、作家が作品を見て貰う機会は激減していく。				●				●
卒業制作が困難でこのような状況下に置かれた時の進め方がわからず頭を悩ませています。	●	●	●					●
コロナの損害補填ではなく、これを機に新たな取り組みに対する寛大な助成を検討してほしい。				●				
精神的な負担が大きいと思う。いろんな人が。どんな人も。軽くするような何かを考えたい。	●					●		
建築と音楽を生業にしています。建築は現場は止まっていませんが、今後建築そのもののあり方が変わると思います。音楽は現状全てが止まっており、仲間も苦しんでいます。　音楽についてはクラスターなどいろいろな問題があるとは思いますが、舞台の再開を目指して出来るだけ早いワクチンの開発などを期待したいです。	●		●		●			
美術作品の制作に必要な材料の調達や取材に支障が生じています。又展覧会の中止による喪失感と多少の売り上げへの影響。個人のアーティストにも有名・無名問わず支援があると助かります。	●			●				
ネットで発表するにも、どのような資材が必要なのか、どのように鑑賞していただけるのが良いのか、全くわからない。	●	●	●	●				●
音楽活動はいずれかの場面で「密」になることが避けられません。プロ・アマ問わず、どのような活動様式であれば音楽活動ができるのか、文化・芸術分野でも他の業種のようにガイドラインのようなものを示していただきたいです。私は一般団体に所属して音楽活動を行っていますが、札幌市の一般団体はどこも様子見という感じで、外出自粛が明けても、どのように活動を再開すればいいのか、分かりません。	●		●	●				●

個人　Q17. ご意見をぜひお聞かせ下さい。 **（伝えたい現状や、新型コロナウイルス感染拡大に関する支援策に限らず、どのような支援策があれば、団体・事務所の活動を促進するのか、助けになるのか等）**	Q11. 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、現在困っていることは何ですか？（複数回答可）							
	創作発表の機会が失われたこと	創作発表の意欲が湧かないこと	創作発表の準備や稽古ができないこと	札幌市内・近郊外への移動の制限があること	自身の研鑽や後進の指導ができないこと	生計の見通しが立たないこと	補償や給付金などの支援策がわからないこと	活動再開の判断が難しいこと
北海道の為、冬は野外での楽器練習が困難です。カラオケ屋さん、レンタルの楽器練習場が、衛生的になり 個別予約にて、開いて下さる事。　また、2月頃から、お店が閉まっていたので、音楽の楽器練習のみに限っては少しの割引料金で使用したいです。 国からも、芸術活動に殉じる事への 助成金があればと思います。　また社会福祉協議会さんのボランティア保険金を1、2年、御免除頂ければと思います。　マスク、消毒薬、透明な被る物等 購入できる支援金を国が出して下さると 助かります。							●
とにかく普通に生活したい。					●			●
以前からアート作品の保管、倉庫など死後の問題、有名無名を問わず未来の財産として残したい、北海道は学閥が強いのでコネがまかり通る、アートの予算を増やしてほしい、若者ばかりが優遇されていますが、年齢は関係ない、公平な美術評論家がほしい！美術の活動場所はグローバルになったので気にはしていないが北海道の縦社会を直してほしい！				●				
発表の機会とお金	●			●	●		●	●
インフルエンザより死亡率が低い感染症で過度な自粛要請をやめること	●	●		●	●	●		●
ライブハウスやコンサートでの活動が再開できたとしても、おそらく入場者数制限などする必要があるのではないかと思います。　元々満員になっても２０～５０人程度のキャパしかないライブハウスで、お客さん同士の間隔を保つための人数制限をすると、ライブをやっても収入は見込めない開店休業のような結果になると思われます。そこのあたりに何か支援策が見つかると良いのですが。	●		●	●				●
指揮者として合唱団、オーケストラ、吹奏楽団の指導をしています。こういった集団での活動は最も再開のはんだんが難しいものの一つかと思います。リモートでの活動にも限界があります。再開の目安や手段の統一したものがあれば助かります。	●		●			●		●
これまで、現代アートの記録撮影分野でスチール撮影をメインに携わってきました　このコロナ自粛で人々は物理的距離を置かざるを得なくなり、私が関わってきた様々なアーティストやプロジェクトやイベントは厚く暗い雲の中に巻き込まれています　アーカイブを作り続けて、文化を下支えしている立場の自分としては、自分自身も苦しいですが、そのようなアートの現場を断腸の思いで見つめています　首都圏を含め世界ではVRをはじめとした技術でアートの火を絶やさない努力が進んでいます　むしろアフターコロナを見据えたオンライン上での新たな文化の発信方法、現実世界と相反した急速なグローバル化の中　北海道、特に札幌は何歩も遅れを取っていると感じています　現状は創造都市とは、はるかにかけ離れていると個人的には感じています　元々、北海道は日本の北の端です　この機会をチャンスと想って　自由で柔軟な発想で　この辺境から北海道から世界に文化発信出来る体制作りを広く、一時的なパッチでは無く　新しいスタイルとして構築する必要が有ると思います						●		●
アマチュア吹奏楽団で活動しておりますが、練習再開の目処もたちません。もちろん本番も中止するしかなく、心の支えが消えてしまったようです。　早く安全に活動再開したいです、	●	●	●					●
劇場の安全な運用に必要、必須なことは何か。医学的根拠を元に実践に活かせる対策を講じることが急務と考えます。長引けば、業界の仕事そのものの質が低下し、今後を担う人材を育成できないことが一番の損失。	●				●	●		●
アマチュアですので自分は支援を受ける必要がありませんが、お世話になっているお店や施設、先生方(職業音楽家)などすべての皆さんに金銭的支援をするのは無理なので、皆の寄付を一か所にまとめてから配分することができたらいいのにと感じております。	●		●	●				
私は福祉の仕事をしながら趣味である邦楽楽器をしております。　ステージや録音を行なっておりましたが、3月からその様な機会がまったく無くなりました。　私は生活費の面では今のところ困ってはおりませんが、今後今までやって来たステージやイベントがどの様な形で開催されていくか、開催できるのがいつになるのか不安で仕方かりません。　仲間もプロで活躍しているアーティストが沢山いるのでその方達の生活保障もどうなるのか不安です。	●	●		●				●
自分はプロでないので生死には関係ないけど活動を再開する方途や目処がわからない	●		●	●	●			●
グラフィックデザイナーとして業務委託を受けて生計をたてている者です。　そういった個人事業主にも給付される支援金をお願いします。　他の地域を見ると「公演・展示・上映等に関わる活動」が条件となっている事があり非常に腹立たしい思いです。						●		
このコロナは、収束を希望しているものの、もう既に、全く元の状態には戻らない気がしています。新しい時代の変換時期とも言えますし、仕事のしかたが大きく変えなければならない時期とも言えます。元の世界に戻しつつも、地域や、特に北海道のような、東京一点集中型、外注先であったような地域にとっては、地方分散するタイミングですので、オンラインなどのインフラ整備を、北海道としてもしっかりと実施すべき事かと思います。特に札幌は、wifiが非常に脆弱で、チャンネルは増やしても電波が弱すぎて、使いものにならず、オリンピックで海外から、来たとしても、とても恥ずかしいレベルの環境なのだと、もうそろそろ気付いても良いかと思っています。そういう準備を、このコロナのタイミングでしておく必要があるかと思います。								
現在、フリーで劇団に所属していないので、新型コロナウイルスに関わらず、出演依頼がしばらく来ていないので、舞台に立てていないことが、苦しい。					●			

個人　Q17. ご意見をぜひお聞かせ下さい。 **（伝えたい現状や、新型コロナウイルス感染拡大に関する支援策に限らず、どのような支援策があれば、団体・事務所の活動を促進するのか、助けになるのか等）**	Q11. 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、現在困っていることは何ですか？（複数回答可）							
	創作発表の機会が失われたこと	創作発表の意欲が湧かないこと	創作発表の準備や稽古ができないこと	札幌市内・近郊外への移動の制限があること	自身の研鑽や後進の指導ができないこと	生計の見通しが立たないこと	補償や給付金などの支援策がわからないこと	活動再開の判断が難しいこと
僕は3月に作品出展、販売を予定していた国内外のアートフェアが中止となり、一時は年収の半分程度が白紙になりましたが、その後ギャラリーとの協力でのオンライン販売により収入をやや取り戻せたことと、フリーランス向けの持続化給付金の制度を利用することで、活動を持続できている状態です。　この後、9月、10月に海外での個展やフェアの予定がありますが、もしこれらが中止延期となれば、再び窮地に立たされる可能性もあります。　自身は規模の小さな個人事業主活動のため、飲食店経営の知り合いや、映画館経営者などの話を聞くに、文化を広く捉えるのであれば、より損害率の大きな彼らの支援を優先して欲しいと思っていました。　特に、家賃などの莫大な固定費のかかる、文化施設などには大小に合わせた支援がよりあれば良いと思いますし、それがアーティストの今後の生き残る道として続いていくように感じています。　今回僕自身も申請できた、中小企業、フリーランス向けの持続化給付金のシステムは、職種に関係なく収入減少の証明で支援額が決まるので、専業アーティストとしてはありがたかったです。　今後も自粛による影響が拡大するならば、同じようなシステムの第二弾を期待します。　個人的には、　芸術家自身はお金があろうとなかろうと、勝手に表現活動をはじめて、後からそれを面白がってくれる理解者が現れるのではないかと思っているので、声高に芸術文化支援を要求する立場かと言われればやや疑問が残ります。　そして芸術文化を応援してくれる一般の皆様の経済活動が活性化することと、　そもそも日常的に芸術文化の根本理解が社会全体(国家含む)でより共有されることから考えていくべき問題だと思っています。	●			●	●			
この「コロナ」による(1)活動自粛中や終息後に、(2)行政の支援や自主的努力で、(3)文化芸術の活動を再開する企画を検討できれば嬉しい。(4)文化芸術を生業とする方々の収入策も見出したい。								●
3ヶ月自粛して預金もギリギリになってきました。持続化給付金も対象外。この仕事を辞めなくてはならないか毎日考えます。	●	●	●	●		●	●	●
リモートでの活動は限りがあります。音楽は部屋で音を出せる環境の人は少なく、器材も部屋にない人が殆どです。ある意味その場での活動はできない、と考えて欲しい。そして、私もアルバイトなとしているが、給付金を一度だけにせず、せめてあと一回は必要だと思う。経済はすぐには戻らない。戻すためにも諸経費が必要になる。			●	●		●		
美術作家としての活動は続けられていますが、イベント等が行われなくなったことや様々な自粛によって生業のひとつの写真撮影業務がほぼゼロになりました。表方と裏方と両方を見据えた支援、支援でなくとも小規模事業者・個人へのスムーズな業務発注（手続きや慣例などでスムーズにいかなかったり不可能だったりすることが多い印象です）などを検討していただくことが大切と思います。	●			●		●		
コロナ対応で忙しく、表現活動に割ける時間がない	●							●
支援クラウドファウンディングが多岐にわたっており、助け合いも良いが、こういうときこそ国がしっかり保証すべき		●		●	●			●
生活の維持が先で、芸術活動をする余裕が無い。		●	●	●	●	●	●	●
パーティーをしたい	●		●					
自粛するなら補償を100%速やかに国がすることが大事。　補償しないなら今後は自粛要請しないで欲しいです。スエーデンのように活動の政権もしないで欲しい。	●	●	●	●				
とにかく支援にしても、コロナ情報にしても確実で迅速な情報が欲しい	●	●	●	●			●	●
劇場、ライブハウス等通常化する事ですね			●	●		●		●
にわかには、まとまりません。								
劇団活動が再開しても今後お客様の生活スタイルも変化して集客が益々難しい　劇場側の困窮を救い　使用料が安くならなければ、活動が難しいと思われる。　60周年来年迎える劇団ですが、ここで活動が停止されないよう　劇場側の資金援助をお願いしたい　借りる私達には最も劇場費を抑えないともうやっていけませんのです	●		●	●				●
アンケートありがとうございます。色んなジャンルのアーティストが相談できるプラットフォームがあればいいなと思う。								●
自分の影響は大きくはないが、演奏のパートナーの方々（専業）、ライブハウスやイベント関係者の経済的状況が非常に厳しくなっている。自分もできる支援はやっているが、今後継続できるか難しい場所・人もおり、たいへん心配している。	●		●		●			
まずは情報が一元化され、札幌市内の方々とオンライン上で情報を共有できること。	●			●	●			
弊社の仕事で市町村への文化事業への提案が今回のコロナの影響で予算化はされているものの、なかなか契約に至りません。こんな時こそ大事な事業ですので前向きに進んでほしいと願います。				●				●
兼業ミュージシャンとしましたが、ギャラ発生があったりなかったりで、たまにPA貸し出しで気持ちだけお金いただいたりな状態で、収入のほぼ全ては昼の仕事です。昼の仕事も自宅待機が多くなり、収入減少してますが、ある程度保証があるので生活に大きな影響は出ておりません。	●	●	●	●				●
講演・ワークショップ等を依頼された際、安心してお引き受けできる基準（時期・地域等）や防疫対策等を示してほしい。				●				
支援は誰が誰に対して行うものを想定しているのか、このアンケートの文中ではわかりづらく答えづらい。				●		●		●
ボランタリーな活動が大半の身としては無力感のみが先立ちますが、少なくとも自分の中の種火まで消さないようにと努めています。　何をどう支援するのか、金銭的にも体力的にも限界がある中で、答えのない答えを探しているところです。								●
アーティスト個人への直接現金給付	●	●	●	●	●	●	●	●
公募内容も中止が多く、作品発表展示の機会を創設していただきたい。オンラインや動画が得意な者ばかりではないので。	●			●				●

個人　Q17. ご意見をぜひお聞かせ下さい。 **（伝えたい現状や、新型コロナウイルス感染拡大に関する支援策に限らず、どのような支援策があれば、団体・事務所の活動を促進するのか、助けになるのか等）**	Q11. 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、現在困っていることは何ですか？（複数回答可）							
	創作発表の機会が失われたこと	創作発表の意欲が湧かないこと	創作発表の準備や稽古ができないこと	札幌市内・近郊外への移動の制限があること	自身の研鑽や後進の指導ができないこと	生計の見通しが立たないこと	補償や給付金などの支援策がわからないこと	活動再開の判断が難しいこと
コロナウィルス終息後に、今までのやり方(ライブやリリースなど)が一気に様変わりする気がします。　経済面での直接的な支援ももちろん助かりますし大事ですが、新しい活動方法の支援や定着させること、ユーザーがお金を落としやすい状況を作ることがこれからの重要な課題であり、一番の不安です。	●		●	●	●	●		●
道内市町村ごとの支援対応や相談窓口の提示。	●			●				●
元々個人に支払われるギャランティが低い業界なので、普通の生活がギリギリだという人が多いため、かなり大きな打撃を受けている。　個人への給付金を迅速に給付することと、今後年内はその給付を続けることでなんとか生きていけると思われる。　国と道と市で分担してでも、給付は継続してほしい。	●			●	●	●	●	●
全てのジャンルの演者が 引きこもりすぎているのと、東京、関東圏の演者に今まで頼りすぎていて、全体的仕事スキルと意識が足りない。　小さな現場でも良いから 無観客配信や動画制作など 裏方の人と一緒に動いて欲しいです。	●		●	●		●		●
家族や自分に基礎疾患があるので、イベントの再開は正直怖いです。観客側もそうだと思います。　その不安を取り除けるような、納得できるような対策が打ち出されることを望みます。				●		●		
公演活動の実施が負荷のヌである状態というのが、一般的に雇用されていた会社がある日突然倒産した状態であることを認識して頂いたうえで、協議願いたいです						●		
この段階でいえることを述べます。インフルエンザより致死率が少なく、感染があっても軽い症状か無症状者が８０％程度で喫煙等で肺ダメージなく、健康診断で問題の無い健康な現役世代ほど大きな制限を「自粛という名の芸術文化及び経済の活動の粛清的行政指導状態」になっている。隔離すべきは免疫力ない人々や不健康状態の人々で、だいたい傾向が見えているだろう。その方々が感染しないような政策をすれば良い。複数の感染及び抗体検査により問題ないと判断されるよう早急に急ぐべきだ。そしてそのように検査で安全が確かめられた人からできるだけ社会復帰させるべきだ。その上でその後、もし感染したら自己責任で医療には駆けつけれるようにすれば良い。さて自粛しても給与は保証されている立場の政府、公的行政系機関は、自粛で困っている人、組織の税金をあてにして成り立っているのをよく自覚してこのアンケート結果通じて同じ立場の気持ちになってもらいたい。その地域のその年の民間の給与変動平均と連動性で給与が決められるようになったらどうなるか？を考えて行政判断してもらいたい。本来許される自由な経済活動部分に制限をかける責任をどのように公的責任を負うのか？税金を支払う民間への自粛指示責任は安易に考えられないほど極めて重い。運営維持収入や生活収入しかない組織や個人が蓄えなくやっとなんとか生活できる中で、3ヶ月自粛というなら、その公的自粛を指示する者やその公的組織も同じく給与を民間に合わせて自粛すべきではないか？（下の行に続く）	●			●		●	●	●
（続き） そしてそれでも民間からの税金の財源が足りなければ、各公的組織個人が借入れ、平時に戻った時に固定費を削減しつつそれでも足りなければかく公務員の給与からコロナ民間自粛指示責任負担としてカードローンのように天引きしていけば良いというのと同じことを今、民間に自粛という名の粛清で図らずも民間にしてしまっている状況を改めて理解して公的な政策運営や支援を今一度、見直し改善したほうがいい。特に公的な政策決断する上層幹部にその重責があり、その判断が公務員全般の連帯責任となり今後の動向次第では民意から強く大きな改革が及ばないよう、政策改善向上を期待します	●			●		●	●	●
アマチュアの市民吹奏楽団所属。　練習場所がいつから使えるか、練習や演奏会が本当にできるのか、がわからなくて不安。			●					●
文化活動再開の具体的な条件の提示と安全策の提示	●					●		●
北海道でのコロナ支援の状況を見ると、舞台や音楽に比べ美術はあまり顧みられていないと感じました。(北海道文化財団の支援は美術は含まれてない、4／26付の北海道アンケートでは美術関係者の意見はほとんど反映されていないし、このようなアンケートがあったことも知らなかったhttps://uploads.strikinglycdn.com/files/005f098d-439d-4db7-8229-6bb1e3575ff3/%E8%8A%B8%E8%A1%93%E6%96%87%E5%8C%96%E6%B4%B%E5%8B%95%E5%BD%B1%E9%9F%BF%E3%82%A2%E3%83%B3%E3%82%B1%E3%83%BC%E3%83%88%E5%8C%97%E6%B5%B7%E9%81%93.pdf?fbclid=IwAR0pPWP636RwjDvvPimjGC12nwudFm9gCPxxehyayvFFOIAfyPJuKZDSHSk)それは公共機関の側とアート関係者双方の問題なんだと思います。スタジオ内でもこうした状況についてやりとりがありましたが、今回だけではなく、何世代に渡って続く互いの無関心や無理解みたいなものがあると感じました。	●	●		●				●
きちんとした会場で動画を撮りたいので、ホール側に協力してもらいたい。撮影、編集、アップロードまでをパッケージしたプランがあれば利用したい。	●		●			●		●
自分の芸術活動だけに打ち込みたいアーティストもいると思いますが「こんな時期だから、短期で別の仕事してもいいかな」「何か別のことで世の中の役に立ちたいな」と思っている人もいるのかなと思います。「状況が落ち着くまでの間だけ、制作活動をしながらできる副業」みたいなのが紹介されると良いのかなと思います。農家のお手伝いとか。まあ、「他にバイトしろっていうのか！ふざけるな！支援しろ！」と言う人も出てくるかとは思いますが。	●			●				●
Kitaraなど大ホールでの客席をどう使用するか、ガイドラインを早く出して欲しい。	●	●	●		●			
これから公演を再開するにはどのような対策が必要か、基準は何かを話し合う、道や市の職員も参加の話し合いの場	●		●	●				●
仕事の方向性を大きく変えていこうとして動いた時期で、まず小さな演奏で食い扶持を確保しようとしていたのがつぶれたのは痛かった。			●		●		●	

個人　Q17. ご意見をぜひお聞かせ下さい。 **（伝えたい現状や、新型コロナウイルス感染拡大に関する支援策に限らず、どのような支援策があれば、団体・事務所の活動を促進するのか、助けになるのか等）**	Q11. 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、現在困っていることは何ですか？（複数回答可）							
	創作発表の機会が失われたこと	創作発表の意欲が湧かないこと	創作発表の準備や稽古ができないこと	札幌市内・近郊外への移動の制限があること	自身の研鑽や後進の指導ができないこと	生計の見通しが立たないこと	補償や給付金などの支援策がわからないこと	活動再開の判断が難しいこと
コンサートやレッスンなどが出来なかった中止の証明は中々難しいが、収入を補ってくれる給付金が必要　そして、ホールなどで安心してお客様が来場できる環境整備　そしてコンサートの宣伝が出来て、集客が少なく距離を開けても収支面で困らない様なコンサート企画ができれば再開できるのではと思う	●	●	●		●		●	●
ただの風邪、されど風邪。		●	●					
様々な分野の芸術家と関わりが持てるような仕組み、欲を言えば一緒に創作出来るオンラインのイベントや交流会があればなと思いました。　こういう状況に追い込まれておもうのは、やはりひとつのコミュニティで出来る事の限界です。　この行き止まりのような状況で、自分達の領域の創作のみに打ち込むというのは、もったいない気がしています。　例えば、絵画と音楽、お笑いと彫刻など取り合わせを様々に、新しい形を探す手助け、コミュニティの融合を考えていただけたら、未来がとても明るいなと感じます。　オンラインの普及した現代だからこそ出来る、新しい芸術同士の関わり方、交わり方を模索していく事がアフターコロナの先にある芸術の在り方なんじゃないかと思っています。	●		●					●
兼業のため、生活するための金銭面は専業の方より余裕はあるかと思うが、作品発表の場、イベントの中止が続き、制作するための資金が減ってきている。また長期自粛のため制作活動の意欲が低下しているのは否めない。　コロナの問題は即時解決するものではないが、このままでは札幌の文化芸術活動の場が縮小してしまうのでは、と危惧している(札幌は本州に比べればまだまだ少ないが折角新しくできた施設や芸術祭がコロナで厳しい状況になるのではと思っています)　また、今後イベントや展覧会の開催は可能なのか(特に大規模なものなど)、それと同時に対面式だけでなく、オンラインでの活動をする際、個人ではできることに限りがあるため、オンライン上でのイベント開催など支援があると有り難く思う。	●	●						●
私個人のことではないが企業に勤める方であればできる今回のような病気や怪我での休職の際に傷病手当があるので兼業で表現活動をしてない方を中心に新型コロナウイルスだけではなくコロナも含めて他の病気や怪我に対応できるように組合を作り傷病手当のような制度を作る事ができればと思います。								
先が見えない難しさはありますが、今は自分の体や作品づくりに向き合える時間だとプラスに捉えています。札幌若者支援センターなどが使えないので、優しい金額で3人程で創作活動の行える場所の支援等があると嬉しいです。			●					
公共施設以外を予約していましたが、キャンセルをしたら、会場費が全部は戻らず、負債を抱えています。予定していたライブの音響や演奏者へも、キャンセルしていて、心苦しいです。どうか芸術活動家たちの経済をお守りください。	●		●	●			●	●
・自治体による無観客に対する上演支援があるとききました。演劇やダンスなどのステージ関係者で無観客をのぞむ制作者は少ないと思われます。　例えば、そのように自治体や国が支援策を出すときに、現場の意見を吸い上げるシステムを作ってもらいたい。	●		●	●				
練習再開、コンサート再開のためのガイドラインが必要。医療の専門家の力を借りながら、吹奏楽連盟など関係団体が積極的にガイドライン作成に動くべき。	●		●					●
自粛ムードの緩和を望みます　延期、中止となった公演に対しての補償を求めます	●		●					
今はまだわからない。　支援といっても、教える生徒の安全、　環境の安心が第一。	●		●					
公演や稽古、作業等の活動場所、活動機会が現在では全くないことは非常につらい状況であるが、理解もできる。しかしながら、再開した時に、公演等の活動がどのように変容していくのかまだ想像ができない。どのように向き合っていくべきか悩ましいところ。	●		●	●	●			●
創作にかかる経費（劇場費や出演料など）の助成があれば、非常に助かります。			●	●				●
札幌に100人の演劇人をつくるプロジェクトはどうした		●	●				●	●
そもそも日本はアーティストに限らず公的扶助、社会保障が不十分であり個別の文化政策以前の状況である。それを踏まえるとどのような政策を政府に要請するにしても文化事業の必要性や特殊さを云々することより先に一人の生活者としてあらゆる業界・団体と協働する姿勢を示していくことが広く理解を得ることにつながるのではないだろうか。また芸術分野の業界団体（労働組合など）のそもそもの数や活動実績が足りていないのではないだろうか。積極的に政府に働きかけるような仕組み・関係性（もちろん政府側にも要望を聞き取り活かす仕組みがなければ仕方がないのだが）を日ごろから作っておく必要性がある。そのような団体の運営への支援が地道ながらもっとも効果的だと思う。	●		●	●		●	●	●
展示やイベントを開催する際にいくらかでも補助金が出ると開催の助けになります。または広告宣伝費。生活費のために働いている給与から会場費、広告費、材料費を出しますので、給与が生活費・税金・健康保険でほとんど消えてしまう場合は、発表の活動にかなりの制限がでます。	●		●	●				
オンラインレッスンの講師を募集してほしいです(経験者や楽器を自分で準備できる人向けのレッスン)。審査の際経歴を考慮に入れていただきたいです。生徒が既にいる講師の方にはオンラインレッスンの相手がいますが、この春から開始予定だった者の場合、大々的な生徒募集ができず、その仕事を始められずにいるためです。	●		●	●			●	●

個人　Q17. ご意見をぜひお聞かせ下さい。 **（伝えたい現状や、新型コロナウイルス感染拡大に関する支援策に限らず、どのような支援策があれば、団体・事務所の活動を促進するのか、助けになるのか等）**	Q11. 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、現在困っていることは何ですか？（複数回答可）							
	創作発表の機会が失われたこと	創作発表の意欲が湧かないこと	創作発表の準備や稽古ができないこと	札幌市内・近郊外への移動の制限があること	自身の研鑽や後進の指導ができないこと	生計の見通しが立たないこと	補償や給付金などの支援策がわからないこと	活動再開の判断が難しいこと
展示の機会の支援を望みます。理由は、このままではコロナ後には若手やまだ世に知られていない作家が軒並み消えてしまう恐れがあるからです。現在ギャラリーや美術雑誌などでアーティストの支援を目的とした作品販売等は行われているものの、参加作家は一定の知名度がある人ばかりです。　2020年に中止、または延期された展覧会等は、おそらく2021年に開催されると思います。2019年まで名が知られていない作家は、2020年と2021年の2年間にわたって展示の機会に恵まれないことになります。2年間発表の機会に恵まれないのは、作家としては大変な事態です。これを機に活動をやめる人が出るかもしれない。従事者の減少が美術にとっての最も悪い状況だと考えます。　また、これはあくまで推測ですが、コロナ後すぐに企画される展覧会は、大御所や有名な中堅どころで独占されると思います。館は収入を確保する必要があるからです。若手作家の作品や実験的な作品などは距離を置かれると思います。　もし札幌市が展覧会の企画をするなら、アンデパンダン式でも良いですし、質を担保するなら公募式にしても良いと思います。アンデパンダン式にしてキュレーションもすると面白いかもしれません。いずれにせよ展覧会はきちんとキュレーションし、作品がどう位置付けられるかを明確にすることも作家への大切な支援だと思います。	●			●				
予定しているコンサートを開催出来るのか、延期等の判断をいつまでするべきか、またキャンセル料など通常の場合と同等であるのか、相談出来る場所があれば、と思います。	●			●				●
"三密"などという、情緒的な防疫姿勢が常識化している現状は、あらゆる表現活動を困難にしている。　建前や分かりやすいさではなく、もっと科学的な防疫手段を普及させて欲しい。　偽政者にとって都合のいい防学情報ではなく、市民活動をきめ細かく考慮した情報を流すべきだ。	●				●			
吹奏楽なのですが、今年一年は活動を見合わせています。拠点が石狩管内なので、練習もできない状況です。	●		●	●				●
齢を重ね残りの人生をピアノ教育に全力で頑張る意志と決意が削がれて哀しい悲しい	●	●		●	●		●	●
頼りたき　人も誰かを　頼りたき　堪え忍びて　リラ冷えの街		●						
現在ある芝居小屋の存続。　専業文化人への援助	●	●	●		●			●
今後の舞台公演などでは客席の間引きを行うことが続くと思います。その分収入が減るのでそこの助成金支援があっって欲しい。またコロナの影響で劇場使用のキャンセルをした場合、キャンセル料が発生するところもあるようで、使用側と劇場側の両方に負担がかからない支援があって欲しい。	●		●	●				
環境整備の為の支援　海外公演や地方公演への金銭的支援	●		●	●		●	●	
集客に関する支援策。								●
アマチュアとしていくつかのオーケストラに在籍しており、時折エキストラとしても活動していますが、実は演奏会がない以上の不利益は受けていません。運営に携わっていない身であるのが大きな要因ではあります。　そんな渦中の外の人間の意見を述べさせていただくならば、昨今の業界の方々の困窮を聞き及ぶに、この度のコロナ損失に対する支援策を検討・嘆願するのは重要だと思いますが、仮にオーケストラを例にするとして現行の収入のあり方を見直すべきではないかと考えています。コンサートホールに人を集めて利益を出すモデルが限界にきており、新たなビジネスのあり方を模索していく時期に来ているのではないかと。　支援策、助成金、スポンサーなどどうにも他に資金繰りをしなければならないモデルからの脱却を探る…もうすでに色々な方が模索しているとしてもより推進すべき事柄だと思います。　こういう意見を述べると必ず「そう簡単には～」と返され、それ故に運営などに携わるのを避けてきた人間の一意見として受け止めていただければ幸いです。	●							
区民センターなど市の施設の利用再開(練習場所確保のため)。部屋の大きさに応じて「何人までなら(密にならないから)良い」など柔軟な判断が欲しい(自身は一人練習のため密にはならない)。	●		●		●			●
バレエ教室を経営しています。　毎日の基礎、スキルアップそしてその発表の場が奪われました。　現在はオンラインでのレッスンを開始しましたが、細やかに指導する事は この先しばらくは難しく いつになったら 生徒側も自分としても安心して日常が戻ってくるのか心配でなりません。　人と人としての繋がりが だんだん薄れていくのでしょうか？　政府、医療関係者共に 迷いながらも精一杯可能な対応はしているのかもしれません。自分個人としては、人として安心して日常が戻ってくれのを待つのが精一杯で、それ以外の支援を思いつきません。	●		●		●	●		●
時間的にも金銭的にも可能かどうか分かりませんが、ワクチンが出来るまでに、十全な支援を施されるのが最大の希望。	●	●	●		●		●	●
コンサートで演奏する仕事以外にも、ブライダル演奏もことごとく中止になってるので、厳しいです。　元々道内出身ではなく、札幌での演奏活動を始めてからも、そう長くないので、どこに相談したら良いかもわかりません。	●		●	●	●			

個人　Q17. ご意見をぜひお聞かせ下さい。 **（伝えたい現状や、新型コロナウイルス感染拡大に関する支援策に限らず、どのような支援策があれば、団体・事務所の活動を促進するのか、助けになるのか等）**	Q11. 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、現在困っていることは何ですか？（複数回答可）							
	創作発表の機会が失われたこと	創作発表の意欲が湧かないこと	創作発表の準備や稽古ができないこと	札幌市内・近郊外への移動の制限があること	自身の研鑽や後進の指導ができないこと	生計の見通しが立たないこと	補償や給付金などの支援策がわからないこと	活動再開の判断が難しいこと
私は商業写真よりも作品としての写真を制作し、インスタレーションとして展開することに重きを置いて活動しており、表現活動を継続して、展示を行い作品を買っていただくことが大切です。オンラインでの展示のベネフィットを得にくい表現形態でもあり、その点において地方都市に拠点を構えるハンデは現在でも決してゼロではなく、それは当然にして安定収入ではありません。　そのため、収入を支えるとともに技能を生かした紙媒体等のデザインの仕事も自営しています。これによって細々ながらも定期的な収入を得られるような形を作ってきましたが、その両翼をもがれる状況であり、この感染症収束の目処が立ったとしても、世情が回復したとしても、従前のような活動や収入の形を保っていくことは極めて困難であると、現状では考えざるを得ません。　写真業界は横のつながりが大変弱く、また、これまでにも中央の団体をはじめ社会問題に対しての一致団結した対処を目立った形で行ってきませんでした(アート界もその例に漏れず、似た状況ではないかと思っています)。　この度の疫病禍の中、ミニシアターやライヴハウス業界が早速まとまって現状を訴え、物心、資金の支援を求めたこととそれに想像を超える大きな反響が寄せられたことは、創作者でもあり愛好者でもある私たちにとって希望の光となりましたが、写真・映像・絵画・立体などの芸術作品を作り続けている人々にとって、明確で、バラバラではなく大同団結した、そして継続性のある支援の枠組みがあれば、「まだ作り続けていけるかもしれない」という意思につなげることができると思います。 （下の行に続く）	●			●		●	●	●
（続き） それは、単に現在作家として活動している人のみならず、これからこの不安定極まりなくとも"表現すること"に生涯を賭けようとする若い世代に、「この世界でやっていけるかもしれない」という希望を、ささやかでも手渡すことにつながると確信します。　アンケートにも回答しましたが、表現活動を継続していけるための恒常的な支援制度、共同基金の造成や、様々な制作と表現の形態に対応した発表の場作り、そして不安定な立場を少しでもお互いさまで支え、芸術文化を作り出す一人ひとりの本当の意味での地位の向上を、この未曾有の危機をバネに、やれるところから行っていかねばと思います。　「人は衣食足りて、文化がありて、その両輪で礼節を知る」と私はいつも自分に言い聞かせ、奮い立たせています。	●			●		●	●	●
ウイルスより人が怖い	●	●	●	●	●			●
天災。終息をただ待つのみ	●	●	●	●	●			●
今回のパンデミックによって、世界で起きる天災、疫病、戦争・紛争等がより身近な問題になりました。これらによってもたらされる芸術文化活動の損失を念頭に置いた支援策の整備か必要だと思います。				●				
興業とは別の収益手段を創造するための、開業支援を広く展開すること。	●		●	●	●	●		●
5月2日に持続化給付金を申請しましたが未だ支払いはありません　5月という時点で遅すぎますし、それ以前の対策も申請場所が複数だったり、複雑な手続きに、少々困惑し疲弊しています　この業界に限らず、どの職業の方にもまずは安心して自粛できる補償を望みます　私たちの活動は正直その後からでもいいのです　まずは全ての方の生活が最低限続けられる環境へのサポートをお願いします			●		●	●		●
制作活動、発表活動で収入を得ているわけではないので、美術の専門分野での指導・教育職＜現在―再任用教員最終年度＞を得ることができれば、それが活動を促進に対する最大の支援といえる。	●							
舞台芸術界では孤立している人もいるかもしれないけど　小さなコミュニティは少しづつできているような気がする　その小さなコミュニティ同士の連携ができるような声掛けとか　あったら　いっしょに乗り越えられるのではないかと思う	●		●	●		●	●	●
このようなアンケートが国内で複数同時に実施されているので、このアンケートが有効に活用されることを願っています。				●				

団体・事業所　Q16. ご意見をぜひお聞かせ下さい。 **（伝えたい現状や、新型コロナウイルス感染拡大に関する支援策に限らず、どのような支援策があれば、団体・事務所の活動を促進するのか、助けになるのか等）**	Q12. 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、貴団体・事業所として現在困っていることは何ですか(複数回答可)。									
	事業・施設の再開に関して判断ができないこと	公演、展覧会、イベント等の中止や延期により損失が発生したこと	公演、展覧会、イベント等の中止や延期に伴う払戻や変更手続き	公演、展覧会、イベント等の準備や稽古ができないこと	札幌市内・近郊外への移動の制限があること	教室やレッスンでの生徒への指導や後進の指導ができないこと	賃金が払えないことや経営の見通しが立たないこと	従業員のメンタルヘルスに不安があること	補償や給付金などの支援策がわからないこと	経営に関して相談ができないこと
このままであれば創作意欲もなくなってしまいそうな心配もあります。過去の公演等の映像もアーカイブとして残していないので、それをインターネット上で公開することでもらえる支援金もなく困っています。	●			●						
２人の小さな人形劇団ですので、現在のところ持続化給付金で維持できています。９月から１１月が幼稚園や保育所の依頼が最も多い時期で、予約もはいっており、通常に戻れば活動を継続できると考えています。子どもたちが安全に観劇できる指針などがあれば、それをもとに園の先生とも相談しながら観劇会の準備したり、また不安を感じている園には実施に向けて話し合いもできると思います。　そもそも観劇会をしない、または予算がとても少ない園が圧倒的に多いのが現状です。地域開放や子育て支援事業等の名目で、観劇会費用を園に補助をしている自治体もあります。そのような支援がさらに手厚くなれば、子どもを対象にした劇団は活動を促進できます。	●									
専門学校に通う学生たちへの支援が欲しい。大学以外でも学んでいる学生は沢山います。	●					●				
このコロナ騒動は天災であるか？　天災だとしたら甘んじて受けもしよう　しかし　自分はこのコロナ騒動は　人災であると思う。								●	●	
美術の公募団体の観点からいうと美術作品の公募点数（一般応募作品の出品手数料）がメインの収入となるが一般応募者が減少し、それに伴い展覧会の観覧者も減少している現状です。　理由としては不景気、少子化に伴い美術を志す若手が減少していることや美術教育が削られている現状で、更に美術を志す若手が減少傾向にあることからです。　日本政府がもっと芸術に理解を示し、芸術を志す若手を支援する何らかの取り組みが必要だと思います。										
芸術が、人間にとって大切なものであり、特に子どもの育ちに必要不可欠である事が、このコロナの制約の中でより明確になっていると思う。国は、平時から芸術家の社会的地位を保証し、経済的な支援を行う事が求められる。もちろん活動の場である、劇場、ライブハウス、スタジオ等への支援も当然である。　とりあえず今は、早急な経済的な支援が全てだと思う。	●	●		●						
6月分より対象となると言われている家賃補助の延長。マスギャザリングが前提となっている我々のような施設は回復のスピードが遅いと思われるので、今年度末(2021.03まで)まで家賃補助の延長をお願いしたい。	●	●								
舞台、音楽、美術関連の被害ばかりが強調されていますが、写真や映像のような現場仕事を要するクリエイティブ業も被害は甚大です。　早急に補助金等の対策をお願いしたいです。	●				●				●	
融資や補助金など以外で日常の業務レベルでおこる問題の気軽な無料相談があれば良いと思います。		●			●					●
公演延期や中止に対する助成金。技術者や出演者、主催者のコロナ防止マニュアルや保険等の知識のマニュアルが必要です。	●				●					
是非ともガイドラインなどをこの業界でも作成し拡散が必要だと思います。		●		●		●				
すべての事業者に、新型コロナウイルス対応のガイドラインを、正規ルートとして、業種別と事務所運営の基本としてのガイドラインの作成するための必要性と周知が大切。生活のガイドラインは、テレビなどニュースになるが、企業向けのガイドラインは経営困窮の支援策ばかりで、企業としての新型コロナウイルス対応のガイドラインを業種別にわかりやすく、必要性を重視して告知してない。これでは、クラスターは起きやすい。大手企業は対応してると思うが、中小企業にも必要であり、ガイドラインについてどうしてよいのかわからず、毎日ネット情報みて、経営者は自己判断を必要とされる。経営者単位の安易な自己判断も、従業員を巻き込んでしまうので、業種別ガイドラインの支援も大切だと思います。　弊社もガイドライン制作を済ませて、従業員周知で実施しています。　経営者としては少し安心できました。		●			●	●				
支援のための助成金を出してほしい	●	●	●	●			●			
ドイツの家具メーカーがコロナの影響で会社更生法を申請して日本支社が閉鎖になり、負債が生じました。これもグローバルなコロナの影響です。こういう場合も助けてくれるのでしょうか？									●	
オンラインで、との動きがありますが、顧客が主に高齢者を対象としている場合には難しい。高齢者も個々に簡単に利用できるオンラインシステムや使い方のレクチャーがあるとよいのですが。	●	●				●				
ドイツが、当初から自国の文化芸術に対するサポートを実行していましたが、それはこのたびの状況に対してというより、日頃からその国がどれだけ文化芸術を大切に考えているのかをはっきり示すものであり、日本がその点において極めて残念な国であることがよくわかりました。文化芸術を大切にする心がなくては、良い支援策など生まれるはずもありません。		●			●					
建築に関わる業種は　長いスパンで仕事をしているので　今の現状は今年の冬から来年の見通しに直結しています。長い期間を対象にした支援策を考えて欲しい										
イベントの開催に際して、指針があると開催する目処が立ちます。							●			
新型コロナウイルス感染拡大に関する正しい情報の啓蒙									●	
持続化給付金はもらいましたが、足りません。　金融公庫の借入も所詮返済が必要なものであり経営が苦しいことに変わりはありません。　この業界に対する手厚い支援策を希望します。　また、スタジオ経営者の皆さんにはそれ以上の支援策が必要と思います。　自社の経営はもちろんですが、文化活動の火を消さないようにしていただきたいと考えます。		●					●			

団体・事業所　Q16. ご意見をぜひお聞かせ下さい。 **（伝えたい現状や、新型コロナウイルス感染拡大に関する支援策に限らず、どのような支援策があれば、団体・事務所の活動を促進するのか、助けになるのか等）**	Q12. 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、貴団体・事業所として現在困っていることは何ですか(複数回答可)。									
	事業・施設の再開に関して判断ができないこと	公演、展覧会、イベント等の中止や延期により損失が発生したこと	公演、展覧会、イベント等の中止や延期に伴う払戻や変更手続き	公演、展覧会、イベント等の準備や稽古ができないこと	札幌市内・近郊外への移動の制限があること	教室やレッスンでの生徒への指導や後進の指導ができないこと	賃金が払えないことや経営の見通しが立たないこと	従業員のメンタルヘルスに不安があること	補償や給付金などの支援策がわからないこと	経営に関して相談ができないこと
公募展団体の会員会友は北海道の作家＜集団＞であり、その活動は、多くは北海道の作家＜集団＞の活動ではあるが、歴史的＜道展の創立は大正１４年＞に北海道の美術の裾野を広げる役割を担ってきた。所属団体の会員・会友は各地域の作家としての活動だけでなく、地域の指導者や教員としての立場の作家もおり、北海道における美術文化促進の担い手でもあった。現代のネット社会の急展開や視覚表現のデジタル化＜アニメーションのデジタル化も＞、公的な現代美術の喧伝により、一般的に見ると、いわゆる「ファインアートのサブカルチャー化」が急速に進んでいると感じる。北海道の公募団体は、中央の公募団体と違い中央集権的な権威に根差したものではなく、北海道の美術文化を開拓し、育んできたものと考える。　北海道の公募展は、北海道の美術文化に貢献することも目的の一つとしているが、基本的に、運営予算は会員会友の会費と展覧会収入で賄われている。 現在の公募展の弱点は広報活動であり、一番の支援は、その活動や成果の紹介等の側面的な支援であろう。現在まで北海道の美術文化の裾野を広げてきた公募団体を支えることは、これからの北海道の美術文化の本質的な推進に繋がると考える。なぜなら、現代の全てのアートは、絵画と彫刻と工芸から生まれてきたものだからである。　また、資金面での支援を必要とする団体には公的な支援をすべきであり、それらは淘汰されるべきではなく、道民の参加機会を維持することが北海道の美術文化への参加間口を維持する意味において重要かつ必要と考える。										
過度とも言える自粛気運を抑制するため、先ずは活動における感染防止ガイドライン。	●	●	●	●	●	●		●		
映画館は、興行場法によって換気能力など厳しく決められていて、大きな劇場やホールなどと同じく、安心した換気状態にあるなど、３密のイメージに対して安心だよという広報。再開してもお客様が安心できるためには映画館に限らず、感染イメージの払拭がないとなかなか戻らないと予想されるので、文化施設、文化の場が大丈夫だよとの広報や、メディアの情報があることが支援につながるでしょう。	●				●		●			
ライブエンターテインメントは、テイクアウトも無観客試合も成り立たない文化です。 色々と、開催のためのガイドラインも示され始めましたが、防疫の観点からしか語られておらず、内容も現実的ではありません。基本的には、ウイルス感染の影響が収束するまで、待つしかないとは思いますが、現状では見通しが立たず、このままでは、芸術文化にかかわる多くの個人、団体が、活動を続けていくのは困難になり、確実に失われて行きます。　日本は、かけ声だけで、芸術文化への支援が後回しになっているのは明らかです。今はもうギリギリの状態と思われます。	●	●	●				●			
ワクチンができるまでの、展示会や教室の対処法が必要。関係者を安心させる事が必要。		●	●	●		●				
イベントが行えないなどのための支援があることがまずなにより安心になるかとおもいます。そして、影響が出ないで伸びてゆくビジネスモデルへ転換させる設備投資や知識を得る機関や政策があるとよいとおもいます。	●	●							●	●
現状、人を集めることが出来ないので 舞台活動 発信や講師のお仕事としても成りたたないので、ワクチンができるまで、少人数開講 、オンライン等で繋ぐしかないのかなと思いますが、その間にテナントの家賃等支払えなくなると思うので、一度廃業に近い形になるのかなと思い始めています。ただ止めてはいけないので、いかなる形でも続けて行こうとは思っています。個々の頑張りと 収束した時に その力を集結できるような文化芸術の発表発信の大きな場・活動を支援して頂ければ それが希望となり皆で頑張れるのかなと思います。	●	●		●	●	●				
貸館を行なっているものとしては、観客席のキャパシティが減るため今までどおりの利用料をいただくのが難しいというのがもっかの悩みです。　主催者としては、採算がとれないことが新たな企画をするにあたって大きな壁となります。　終息宣言が出て大々的に宣伝できるようになるまでの間、段階的に開催される公演やイベントへ間引いた客席分のなんらかの支援があると助かります。	●	●		●			●			
美術系学生に対する助成		●								
3密に加え、多人数(300人)、ハイリスク(高齢者)な合唱団における具体的な対策を知りたい	●									
コロナが収まった後にも、新たな演劇ファンが産まれてくれるため、また、これまで観劇を趣味にしている方みなさまが、演劇から離れず、安心した環境で観劇を楽しむ為の準備があれば嬉しい。	●			●						
現在私共の把握している範囲ですが、このコロナ禍における舞台芸術の活動に対しての助成金制度というのが主にオンライン配信での公演活動に対しての助成というものです。　このコロナ禍において開催できる舞台芸術等の可能性というものをもっと踏み込んだ視点で検討する、又はアーティストや識者、行政等が共に考えてゆく事自体にお金を払うべきなのでは？と思いました。	●					●				
文化・芸術事業はいち早く自粛に協力してきました。経済規模の違いはありますが、飲食店で感染対策を講じて酒提供、飲食が再開される一方で、ガイドラインがなく放置されている文化事業の現状は、日本での文化従事者の社会的立場の低さをよく表していると感じます。　飲食も同じ文化事業の１つと考えます。１度なくなってしまったら再び再興させることが難しい分野、職人の集まっている事業です。どうか文化事業者を飲食業とも同じように扱ってほしい、再開できるようなガイドラインを一刻も早く行政に作ってほしいです。	●	●								

団体・事業所　Q16. ご意見をぜひお聞かせ下さい。 **（伝えたい現状や、新型コロナウイルス感染拡大に関する支援策に限らず、どのような支援策があれば、団体・事務所の活動を促進するのか、助けになるのか等）**	Q12. 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、貴団体・事業所として現在困っていることは何ですか(複数回答可)。									
	事業・施設の再開に関して判断ができないこと	公演、展覧会、イベント等の中止や延期により損失が発生したこと	公演、展覧会、イベント等の中止や延期に伴う払戻や変更手続き	公演、展覧会、イベント等の準備や稽古ができないこと	札幌市内・近郊外への移動の制限があること	教室やレッスンでの生徒への指導や後進の指導ができないこと	賃金が払えないことや経営の見通しが立たないこと	従業員のメンタルヘルスに不安があること	補償や給付金などの支援策がわからないこと	経営に関して相談ができないこと
・文化施設のインターネットインフラの整備（簡単にネットライブ配信できる様に）。 ・公立施設の稽古場利用料金の減免もしくは施設稽古場利用費の助成。 ・公共施設での公演PR（ポスター掲示）スペースの拡充（ちかほの壁や、地下鉄構内の壁面を、文化催事には無料で提供するなど） ・公設施設の、入場料の額による施設利用料の割増システムの撤廃。 ・公立施設利用申し込み開始期間の延長（キャリア5年以上の団体には、18ヶ月前からとか、時計台は1年前からなど、実績のある団体をより優遇する）　＊個人、団体など個別に支援するのではなく、実演劇術の活動基盤を整備すること。その上で、実績に応じた優遇・振興策を施すこと。　実績＝市民への還元率が高いということなので、行政としても重きをおいて支援すべき。				●	●	●	●			
設問1と2の違いが分かりませんでしたので、合わせて回答しました。				●					●	
１つの公演をするのに、色々な種類の経費がかかります。　会場費、飛行機代、宿泊代、チケット販売サイト。　コロナの影響なら、会場費はお返しします。飛行機、宿泊代、チケット販売サイトの料金は戻りませんでした。　となると、先の公演をどの段階で諦めれば良いのか、ギャンブルのようなことになっています。　個人でメンバー分の経費、大きなリスクを背負うことになるのですが、今年から本格的に始めようとした矢先のことで、この損失が出た場合、前年比がないので、どうしたものか…	●	●		●	●					
劇場で舞台上、客席、楽屋、舞台袖とうでのソーシャルディスタンスがどうなるのかが心配です。				●	●					
家賃の減額、税金の免除	●	●	●	●		●	●			
会場費などの市からの助成など。感染拡大を防ぐ措置を　した上での開館。	●	●	●							
公演再開の際、会場予約が困難。　ヒタルなど、格安に借りやすくなればいい。		●		●		●				
家賃と従業員の給料が支払いが出来なく困惑しております。　活動場所の閉鎖も考えております。	●	●	●	●	●	●	●	●		
会員に高齢者が多く、稽古や発表の場が皆無の状態が長引けば、意欲の低下による会の維持レベルや会員個々の向上心の減少が気掛かりである。	●			●		●				
２月２５日以降現場の仕事がほぼ全滅の状態です。何とか融資でやりくりはしていますが、何時終息するか判らない不安感で一杯です。少なくとも１０，０００，０００円くらいの支援があれば立て直すことが可能かと。	●	●						●		
現在の感染状況を正確に把握し、それに伴う社会生活における感染リスク（可能性）を提示し、生活者全員に「感染」が起きてしまうことへの理解と寛容さが持てるような周知の支援。	●	●		●		●	●		●	
終わりの見えない新型コロナの影響に対して、企業を倒産させないためには通常融資では効果が限られる。特に観光やエンターテイメント等に関わる中小企業では年を越すような事態になると大半の企業は破綻することになる。大企業を対象に政府が考えている劣後ローンで自己資本率を高めることに加え、中小企業用に永久劣後ローンを使う事を提案したい。永久劣後ローンはモラルハザードを生みやすいので、利用出来る企業の選別が必要となる。その役目を取引先の金融機関が対応すれば、疲弊している地銀や信金等の経営にもプラスとなる。　これに加えて不動産の賃貸先送りが上限を設けず可能になれば、かなりの企業は長期戦になったとしても持ち堪えることが可能になるはずである。		●								
芸術文化支援の緊急としては、家賃や人件費などの補助だと思う。日本は事業助成だらけなのだが、それはもう少し落ち着いてからではないか。　アーツカウンシルのような予算を持つ常設の専門機関で相談機関が必要ではないか	●				●			●		
文化行政に携わる皆さんにお願い！　「文化は民間の方々がおつくりになるもの」のこれまでの方針を一度、お捨ていただき、支えていただきたい。公的支援なくして、今回の危機は、乗り越えられません。文化芸術が瀕死の状態に陥っているという危機感を共有していただきたい。　文化芸術の活動自体は、死に絶えることはありません。現状の活動を一度、全部、殺しても、新たにまた生まれてくるでしょう。どこまで死ねば（何社廃業すれば？、何団体が活動休止すれば）、本気になっていただけるのでしょうか？　我々も努力します。なので、すべて救う！、の姿勢で今回の災害に一緒に立ち向かってください。一緒に考えさせてください。		●								
私は広告の写真撮影をメインとしていますが、出張禁止や撮影の縮小延期などが続いていてほとんど仕事が無い、あるいは延期という状況です。休業要請などにスタジオを持っていないカメラマンは対象に含まれません。持続化給付金についても売り上げが50%以下に減っていなければ申請出来ず、私のように48.9%減っても救済されないというのが辛い状況です。個人事業主なのである程度リスクは計算の上ですが、仕事そのものが縮小や無くなっていく自体が長く続く事に不安を感じています。		●					●			
各分野の状況に合わせて、例えば公園の遊具認定のように、あくまでも設置者（主催者）の責任ではあるが、利用者（来場者・参加者）が安心できる指針、ガイドラインや指針を作成して、まずは主催者・関係者が共有する仕組みがあるとよい。	●				●			●		
1/2補助などは使い勝手が良くない。補助金の適正で効果的なプランが欲しい。お金を与えるだけではなく、芸術文化における免税措置や優遇策があるとありがたい。	●	●	●		●		●	●		

団体・事業所　Q16. ご意見をぜひお聞かせ下さい。 **（伝えたい現状や、新型コロナウイルス感染拡大に関する支援策に限らず、どのような支援策があれば、団体・事務所の活動を促進するのか、助けになるのか等）**	Q12. 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、貴団体・事業所として現在困っていることは何ですか(複数回答可)。									
	事業・施設の再開に関して判断ができないこと	公演、展覧会、イベント等の中止や延期により損失が発生したこと	公演、展覧会、イベント等の中止や延期に伴う払戻や変更手続き	公演、展覧会、イベント等の準備や稽古ができないこと	札幌市内・近郊外への移動の制限があること	教室やレッスンでの生徒への指導や後進の指導ができないこと	賃金が払えないことや経営の見通しが立たないこと	従業員のメンタルヘルスに不安があること	補償や給付金などの支援策がわからないこと	経営に関して相談ができないこと
コロナが終息するスピード感にもよると思いますが、　その終息期間も含めて、上演の企画の発生自体ができない状態だと思うので、 劇場で無観客やあるいは、少観客での公演を（リアルタイム配信することを含む）できるだけスピード感を持って、それをかつ有料で行うことで、劇場や技術スタッフにそのお金を回して行くことが、まずは元に戻るための、最優先の事業ではないかと思っています。　その部分の支援（技術的な支援も含む）策を提案していただくのが、　支援策を取りまとめをする立場に近い方や、行政にコネクションを持たれている方にぜひとも進めていただければと思っております。				●						
先般の回答に重複しますが、新規事業・業態変更への支援です。	●	●			●		●			
屋外で短時間・少人数での公演を上演できる場の提供	●	●		●				●		
オンライン化で公演をする場合、団体側よりも保育園や幼稚園、小学校など公演先のネット環境も整備されていないと難しい。教育機関のオンライン化は長い目でみれば、文化団体がお手伝いできる別の可能性が生まれると考えます	●									
公立施設といえど、このまま公演や事業が中止となれば指定管理費用にも影響が出てくる可能性もある。そうならないために何ができるのか、どのような再開を目指すべきか悩ましいところである。	●			●	●	●		●		
フリーランスへの支援充実とその内容の告知	●	●	●		●					
メディアなどで言われているように、アフターコロナの世界はその前と同じに戻ることは無いとなると、どのように変容して行くことができるのか。　助成金などの情報も少なく、このアンケートで色々あるのを見て、これから調べようと思っている位です。 ただでさえ個人事業主は孤独で広い情報が無いので、大きな団体でなくても入れるコミュニティがあると助かります。				●		●	●		●	
劇場の使い方のガイドラインが決まらなければ収支を考えることが出来ずスタートラインにすら立てません。ガイドラインが出来てから、収支が取れる公演を打てるかを考えて、公演に踏み切るか決めるので、現在はそこがみえずに動けず困っている状態です。もちろんそこが決まってもうちのようにオリジナルミュージカルの劇団は費用がかさむため、劇場費などの補助が相当なければ公演は難しいかと思っています。来年1月に延期はしましたが、中止も視野にいれている状態です。クオリティを下げるのもいやですし、かといって赤字確定の状態で公演打つ意味もわからず、ただ、第三波が来るのを待つしかない状態です。第三波が来たら中止の決断に踏み切る予定です。　無力過ぎてどうしようもないですね。	●	●		●		●	●	●		
従業員への賃金給付、家賃やローンおよびリース代金の補助、税金納付の免除。		●								●
経済活動再開へ向けた動きを加速していく必要があると思います。 コロナを正しく怖がり、不要に恐れない生活様式を作る必要があると思います。　正直、メディアが流す情報は偏ったものになっていると思ってます。		●					●			
札幌市における市有文化施設の利用に際して「共催」事業等による会場使用料の減免制度など。事業の中身や公益性、青少年の文化育成事業などを考慮して柔軟に対応してもらいたい。	●			●	●	●				

＊回答は受付順に掲載しています
＊求められる対策・支援策についての記述に下線を引いています
＊回答は個人が特定される箇所を除き編集を行わず掲載しています
＊ご自身の書かれた記述で削除したい、公開したくないご意見がありましたら、お手数ですが担当までお申し出ください
　連絡先：さっぽろ天神山アートスタジオ（担当：小田井）011-820-2140 Eメール mami@sapporo2.org

＊本資料の無断転載を禁止します